

HP Operations Smart Plug-in for BEA WebLogic Server

for HP Operations Manager for UNIX®

ソフトウェア バージョン : 7.00

リファレンスガイド

ドキュメント リリース日 : 2009 年 12 月

ソフトウェア リリース日 : 2009 年 12 月



ご注意

保証

HP 製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載で追加保証を意図するものは一切ありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HP はいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

権利の制限

機密性のあるコンピュータ ソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HP からの有効な使用許諾が必要です。商用コンピュータ ソフトウェア、コンピュータ ソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、FAR12.211 および 12.212 の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

著作権について

© Copyright 2002-2006, 2008-2009 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標について

UNIX® は、The Open Group の登録商標です。

Windows® は、米国における Microsoft Corporation の登録商標です。

Java™ は、Sun Microsystems, Inc. の米国内での登録商標です。

サードパーティ ライセンス契約の詳細は、製品インストール DVD-ROM の `ovinstall/license-agreements/SPI` ディレクトリを参照してください。

ドキュメントの更新情報

このマニュアルの表紙には、以下の識別情報が記載されています。

- ソフトウェアのバージョン番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメント リリース日は、ドキュメントが更新されるたびに変更されます。
- ソフトウェア リリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

最新の更新のチェック、またはご使用のドキュメントが最新版かどうかの確認には、次のサイトをご利用ください。

<http://h20230.www2.hp.com/selfsolve/manuals>

このサイトを利用するには、HP パスポート への登録とサインインが必要です。HP パスポート ID の登録は、次の Web サイトから行なうことができます。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>

または、HP パスポートのログイン ページの **[New users - please register]** リンクをクリックします。

適切な製品サポート サービスをお申し込みいただいたお客様は、最新版をご入手いただけます。詳細については、HP の営業担当にお問い合わせください。

サポート

次の HP ソフトウェアサポート オンライン Web サイトを参照してください。

<http://www.hp.com/go/hpsoftwaresupport>

HP ソフトウェアが提供する製品、サービス、サポートに関する詳細情報をご覧ください。

HP ソフトウェア サポート オンラインでは、セルフソルブ機能を提供しています。お客様の業務の管理に必要な対話型の技術支援ツールに、素早く効率的にアクセスいただけます。HP ソフトウェアサポート Web サイトのサポート範囲は、次のとおりです。

- 関心のある技術情報の検索
- サポート ケースの登録とトラッキング、およびエンハンスメント要求
- ソフトウェア パッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HP サポート窓口の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の閲覧
- 他のソフトウェア カスタマとの意見交換
- ソフトウェア トレーニングの検索と登録

一部を除き、サポートのご利用には、HP パスポートユーザーとしてご登録の上、ログインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。

アクセス レベルに関する詳細は、以下の Web サイト を参照してください。

http://h20230.www2.hp.com/new_access_levels.jsp

HP パスポート ID を登録するには、以下の Web サイトにアクセスしてください。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>

目次

第 1 章 WebLogic SPI のポリシー	9
WebLogic SPI のメトリック	9
メトリックの概要	9
メトリック仕様の説明	19
メトリックの詳細	20
メトリック B001_ServerStatus	21
メトリック B002_ServerStatusRep	22
メトリック B005_JVMMemUtilPct	22
メトリック B010_ExQueThruRate	24
メトリック B011_ExQThrdUtilPct	25
メトリック B012_ExQueWaitCnt	27
メトリック B013_SocketTrafficRt	28
メトリック B014_ActiveSocketCnt	29
メトリック B015_SrvrRestartsPc	30
メトリック B016_GloThrePoolOverload	31
メトリック B017_WorkloadMgrOverload	32
メトリック B025_EJBFreePoolWtRt	33
メトリック B225_EJBFreePoolWaitRate	35
メトリック B026_EJBTimeoutRt	37
メトリック B226_EJBTimeoutRate	38
メトリック B035_EJBTranThruRt	39
メトリック B036_EJBTranRbRt	40
メトリック B238_EJBCacheHitPct	41
メトリック B240_ServletAveExecTime	42
メトリック B241_ServletTimeCnt	43
メトリック B242_ServletReqRate	43
メトリック B245_WebAppSessionCnt	44
メトリック B246_WebAppHitRt	45
メトリック B251_JMSUtilByMessagePct	45
メトリック B252_JMSUtilByBytePct	47
メトリック B253_JMSThreshByMessagePct	48
メトリック B254_JMSThreshByBytePct	49
メトリック B255_JMSServerThruMessageRt	50
メトリック B256_JMSServerThruByteRt	50
メトリック B260_JDBCConnectionPoolUtil	51
メトリック B061_JDBCConPIWtCnt	52
メトリック B262_JDBCConnectionPoolThruRt	53
メトリック B063_JDBCConnectionPoolLeakedConnectionsRtSum	53
メトリック B263_JDBCConnectionPoolLeakedConnectionsRt	54
メトリック B264_JDBCConnectionPoolFailures	55

メトリック B265_JDBCConnectionPoolAvgConnectionDelayTime	56
メトリック B070_TrانAveTime	57
メトリック B270_ConnectorConnectionPoolUtil	58
メトリック B071_TrانRollbackPct	59
メトリック B072_TrانResErrRbPct	61
メトリック B073_TrانAppErrRbPct	62
メトリック B074_TrانTimErrRbPct	63
メトリック B075_TrانSysErrRbPct	64
メトリック B076_TrانThruRate	65
メトリック B077_TrانHeurCnt	66
メトリック B078_ConnectorConnectionPoolLeakedConnRateSum	68
メトリック B278_ConnectorConnectionPoolLeakedConnRate	68
メトリック B079_TrانCapacityUtil	70
メトリック B080_ClsOutMesFailRt	70
メトリック B081_ClsInMesFailRt	72
メトリック B082_ClusterHealth	74
メトリック B281_XMLCacheDiskSize	74
メトリック B282_XMLCacheMemorySize	76
メトリック B283_DeferredRequestsCnt	76
メトリック B284_ReqWaitTimeForThread	78
メトリック B085_InvLoginAttCnt	79
メトリック B285_PendingReqCount	80
メトリック B286_PendingReqPct	81
メトリック B287_ReqMaxWaitTime	82
メトリック B288_StandbyThreadCount	83
メトリック B289_MDBProcMsgRate	84
メトリック B092_ExQueThroughput	84
メトリック B812_DomainInfo	85
メトリック B813_ApplicationInfo	85
メトリック B815_TrانInfo	86
メトリック B819_JVMHeapFreeMem	86
メトリック B820_SrvrRestReqrd	87
メトリック B821_Suspnded	88
メトリック B822_DstroydTlCnt	89
メトリック B823_EJBMssdCntRtSum	90
メトリック B824_EJBMssdCntRt	91
WebLogic SPI ログファイルのポリシー	92
WLSSPI エラー ログ	92
WebLogic ログ テンプレート	93
WLSSPI Java Discovery エラー ログ	93
WLSSPI Java Collector エラー ログ	93
第 2 章 WebLogic SPI のツール、レポート、およびグラフ	95
ツール	95
レポート	95
WebLogic SPI 用の HP Reporter のレポート	95
WebLogic SPI 用の HP Performance Insight レポート	97

グラフ	99
A WebLogic SPI ゴールデン メトリック	103
B WebLogic Server サーバー用のデータ ストア テーブル	105
C レポート用のデータ ストアの詳細	111
D グラフ用のデータ ストアの詳細	123
索引	127

第1章 WebLogic SPI のポリシー

この章では、HP Operations Smart Plug-in for BEA WebLogic Server (WebLogic SPI)のメトリックの概要および詳細情報を表形式で示します。メトリックについての説明は、受信した WebLogic SPI データを理解する上で役立ちます。また、本章はメトリックのカスタマイズに必要な情報も提供します。

この章には以下のセクションがあります。

- メトリックの概要
- メトリックの詳細

WebLogic SPI のメトリック

メトリックの概要

WebLogic SPI メトリック ポリシーには、WebLogic SPI のセットアップ タスクを簡略化するために事前に定義された設定が含まれています。ただし環境によっては、これらの設定をカスタマイズする必要がある場合があります。この項と[メトリックの詳細 \(20ページ\)](#)では、カスタマイズに必要な基本情報を示します。

概要リストでは、メトリックと各メトリックの最も基本的な情報のリストを示します。メトリック概要表の後に、すべての WebLogic Server メトリックについて個々のメトリックの詳細を示し、使用可能な場合はそれらのモニター テンプレートの設定を示します。レポートまたはグラフ作成のみに使用するメトリックに対するモニター設定は存在しないため、設定には「N/A」(該当せず)と表示されます。

表1で、メトリック概要シートの各列の項目について説明します。

表1 メトリック概要シート: 各列の項目

メトリック番号	メトリックに割り当てられた番号 (例: 25 = B025)。200 番台のメトリックは、WebLogic Server の 1 つのインスタンスを対象に値を収集するドリルダウン メトリックです (例: 225 = B225)。
メトリック名	メトリックの略称 (例: EJBTranRbPct = EJB Transaction Rollback Percent [EJB トランザクションのロールバック割合])。
説明	収集されるメトリック値。
使用可能な WebLogic Server のバージョン	そのメトリックを使用できる WebLogic Server のバージョン (9.x、10.x)。
タイプ	そのメトリックを収集する目的。 A = 警告通知 R = Reporter のレポート作成 G = Reporter のグラフ作成
領域	そのメトリックが対象とする WebLogic Server の論理的な領域。

表 2 メトリックの概要

番号	メトリック名	説明	使用可能な WLS のバージョン	タイプ	重要度	領域
1	B001_ServerStatus	サーバーのステータス	すべて	A	危険域 注意域	可用性
2	B002_ServerStatusRep	サーバーのステータス: レポート作成	すべて	R		可用性
5	B005_JVMMemUtilPct	JVM で使用されるヒープ空間の割合	すべて	GA	危険域 重要警戒域	JVM
10	B010_ExQueThruRate	実行キューで 1 秒あたりに処理される要求の数	すべて	GR		パフォーマンス
11	B011_ExQThrdUtilPct	サーバーの実行キューに使用されているスレッドの割合	すべて	GRA	危険域 重要警戒域 警戒域	パフォーマンス
12	B012_ExQueWaitCnt	提供されるまで待機しているクライアントの要求数	すべて	GA	警戒域	パフォーマンス
13	B013_SocketTrafficRt	1 秒当たりに開かれるソケット接続の数	すべて	G		パフォーマンス
14	B014_ActiveSocketCnt	開かれているソケット接続の数	すべて	GA	警戒域	パフォーマンス
15	B015_SrvrRestartsPct	許容可能な再起動の発生する割合	すべて	GA	危険域 注意域	パフォーマンス
16	B016_GloThrePoolOverload	グローバル スレッド プールのオーバーロード条件	すべて	A	危険域	パフォーマンス
17	B017_WorkloadMgrOverload	Workload Manager のオーバーロード条件	すべて	A	危険域	パフォーマンス

表2 メトリックの概要

番号	メトリック名	説明	使用可能なWLSのバージョン	タイプ	重要度	領域
25	B025_EJBFreePoolWtRt	フリープールからEJB Beanを利用できなかった1分当たりの回数	すべて	GRA	注意域	EJB
225	B225_EJBFreePoolWaitRate	フリープールからEJB Beanを利用できなかった1分あたりの回数(ドリルダウン)	すべて	A	注意域	EJB
26	B026_EJBTimeoutRt	EJB Beanの待機中にクライアントがタイムアウトした1分あたりの回数	すべて	GRA	注意域	EJB
226	B226_EJBTimeoutRate	EJB Beanの待機中にクライアントがタイムアウトした1分あたりの回数(ドリルダウン)	すべて	A	注意域	EJB
35	B035_EJBTranThruRt	1秒当たりのEJB トランザクションの数	すべて	GRA	注意域	EJB
36	B036_EJBTranRbRt	1秒当たりの、ロールバックされるEJB トランザクションの数	すべて	GRA	注意域	EJB
238	B238_EJBCacheHitPct	使用中のキャッシュ内のEJBの割合	すべて	RA	注意域	EJB
240	B240_ServletAveExecTime	サーブレットの平均実行時間(ミリ秒)	すべて	RA	注意域	サーブレット
241	B241_ServletTimeCnt	サーブレットで費やされる時間	すべて	R		サーブレット

表 2 メトリックの概要

番号	メトリック名	説明	使用可能な WLS のバージョン	タイプ	重要度	領域
242	B242_ServletReqRate	1 秒あたりのサーブレットの要求数	すべて	RA	注意域	サーブレット
245	B245_WebAppSessionCnt	Web アプリケーションのオープンセッションの数	すべて	RA	注意域	Web アプリケーション
246	B246_WebAppHitRt	Web アプリケーションが実行している 1 秒あたりのオープンセッションの数	すべて	R		Web アプリケーション
251	B251_JMSUtilByMessagePct	いっぱいになった JMS サーバーの割合 (すべてのメッセージ数ベース)	すべて	RA	危険域 重要警戒域	JMS
252	B252_JMSUtilByBytePct	いっぱいになった JMS サーバーの割合 (総バイト数ベース)	すべて	RA	危険域 重要警戒域	JMS
253	B253_JMSThreshByMessagePct	サーバーで設定したしきい値条件に達した時間の割合 (メッセージ数ベース)	すべて	RA	注意域	JMS
254	B254_JMSThreshByBytePct	サーバーで設定したしきい値条件に達した時間の割合 (総バイト数ベース)	すべて	RA	注意域	JMS
255	B255_JMSServerThruMessageRt	1 秒あたりに JMS サーバーを通じて渡されたメッセージの数	すべて	R		JMS
256	B256_JMSServerThruByteRt	1 秒あたりに JMS サーバーを通じて渡されたバイト数	すべて	R		JMS

表2 メトリックの概要

番号	メトリック名	説明	使用可能なWLSのバージョン	タイプ	重要度	領域
260	B260_JDBCConnectionPoolUtil	接続プール内の使用可能なJDBC接続の使用率	すべて	RA	危険域 重要警戒域	JDBC
61	B061_JDBCConPIWtCnt	接続プールからの接続を取得するために待機しているクライアントの数	すべて	GA	注意域	JDBC
262	B262_JDBCConnectionPoolThruRt	1秒あたりに接続プールで処理されるクライアントの数	すべて	R		JDBC
63	B063_JDBCConnectionPoolLeakedConnectionsRtSum	閉じられていないJDBC接続と、最大待ち時間を超えたJDBC接続の数	すべて	G		JDBC
263	B263_JDBCConnectionPoolLeakedConnectionsRt	JDBC接続プールのリークした接続の割合	すべて	RA	注意域	JDBC
264	B264_JDBCConnectionPoolFailures	JDBC接続プールの障害	すべて	A	注意域	JDBC
265	B265_JDBCConnectionPoolAvgConnectionDelayTime	JDBC接続プールの接続遅延	すべて	RA	注意域	JDBC
70	B070_TranAveTime	トランザクションの平均コミット時間	すべて	GRA	警戒域	トランザクション

表2 メトリックの概要

番号	メトリック名	説明	使用可能なWLSのバージョン	タイプ	重要度	領域
270	B270_ConnectorConnectionPoolUtil	接続プール内の使用可能なJCA接続の使用率	すべて	RA	危険域 重要警戒域	コネクタ
71	B071_TransRollbackPct	ロールバックされたトランザクションの割合	すべて	GRA	警戒域	トランザクション
72	B072_TransResErrRbPct	リソースエラーのためロールバックされたトランザクションの割合	すべて	GRA	警戒域	トランザクション
73	B073_TransAppErrRbPct	アプリケーションエラーのためロールバックされたトランザクションの割合	すべて	GRA	警戒域	トランザクション
74	B074_TransTimErrRbPct	タイムアウトエラーのためロールバックされたトランザクションの割合	すべて	GRA	警戒域	トランザクション
75	B075_TransSysErrRbPct	システムエラーのためロールバックされたトランザクションの割合	すべて	GRA	警戒域	トランザクション
76	B076_TransThruRate	1秒あたりに処理されるトランザクションの数	すべて	GR		トランザクション
77	B077_TransHeurCnt	ヒューリスティックな決定を返すトランザクションの割合	すべて	GRA	警戒域	トランザクション

表2 メトリックの概要

番号	メトリック名	説明	使用可能なWLSのバージョン	タイプ	重要度	領域
78	B078_ConnectorConnectionPoolLeakedConnRateSum	閉じていないコネクタ接続と、最大待ち時間を超えたコネクタ接続の数	すべて	G		コネクタ
278	B278_ConnectorConnectionPoolLeakedConnRate	JCA 接続プールのリークした接続の割合	すべて	RA	注意域	コネクタ
79	B079_TransCapacityUtil	トランザクション容量の使用率	すべて	GRA	危険域 重要警戒域	トランザクション
80	B080_ClsOutMesFailRt	1分あたりにクラスタに再送されたマルチキャストメッセージの数	すべて	GA	警戒域	クラスタ
81	B081_ClsInMesFailRt	サーバーで失われた、クラスタからの1分あたりのマルチキャストメッセージ数	すべて	GA	警戒域	クラスタ
82	B082_ClusterHealth	クラスタの動作状況	すべて	GA	危険域	クラスタ
281	B281_XMLCacheDiskSize	XMLパーサーでの外部参照が含まれるディスクにキャッシュされたエントリの総数	9.x	R	なし	XML キャッシュ

表2 メトリックの概要

番号	メトリック名	説明	使用可能なWLSのバージョン	タイプ	重要度	領域
282	B282_XMLCacheMemory Size	XMLパーサーでの外部参照が含まれるメモリにキャッシュされたエントリの総数	すべて	R	なし	XML キャッシュ
283	B283_DeferredRequests Cnt	保留状態の要求の数	すべて	GA	注意域	XML キャッシュ
284	B284_ReqWaitTimeForThread	スレッド要求待ち時間	すべて	GA	注意域	XML キャッシュ
85	B085_InvLoginAttCnt	無効なログイン試行の回数	すべて	GA	警戒域	セキュリティ
285	B285_PendingReqCount	保留状態の要求の数	すべて	GA	注意域	XML キャッシュ
286	B286_PendingReqPct	保留状態の要求の割合	すべて	GA	警戒域	XML キャッシュ
287	B287_ReqMaxWaitTime	スレッド要求最長待ち時間	すべて	GA	注意域	XML キャッシュ
288	B288_StandbyThreadCount	スタンバイプールのスレッド数	すべて	GA	注意域	XML キャッシュ
289	B289_MDBProcMsgRate	処理されたメッセージ数	すべて	R		特別なレポート
92	B092_ExQueThroughput	実行キューで1秒あたりに処理される要求の平均数	すべて	GA	注意域	タイム サービス

表 2 メトリックの概要

番号	メトリック名	説明	使用可能な WLS のバージョン	タイプ	重要度	領域
812	B812_DomainInfo	WebLogic ドメイン構成、クラスタ情報、および物理的なコンピュータ	10.x	R		特別なレポート
813	B813_ApplicationInfo	WebLogic Server で実行中のアプリケーション	10.x	R		特別なレポート
815	B815_TranInfo	WebLogic Server のステータス	10.x	R		特別なレポート
819	B819_JVMHeapFreeMem	JVM ヒープ空きメモリ (KB 単位)	10.x	G		JVM
820	B820_SrvrRestReqrd	要サーバー再起動	10.x	AG		Server
821	B821_Suspnded	RequestManager 一時停止	10.x	AG		ThreadPool

表 2 メトリックの概要

番号	メトリック名	説明	使用可能な WLS のバージョン	タイプ	重要度	領域
822	B822_DstroydTlCnt	プールからの bean インスタンスがプールからスローされたアプリケーション以外の例外によって無効化された合計回数	10.x	AG		EJBPool
823	B823_EJBMssdCntRt Sum	フリープールからインスタンスを取得するために行った試行が失敗した回数	10.x	AGR		EJBPool
824	B824_EJBMssdCntRt	フリープールからインスタンスを取得するために行った試行が失敗した 1 分あたりの回数	10.x	A		EJBPool

メトリック仕様の説明

WebLogic SPI メトリックは **BXXX** として識別できます。ここで、**XXX** はそのメトリックに割り当てられた番号です。メトリック番号の前に付いている「**B**」は、そのメトリックが **WebLogic SPI** メトリックであることを示しています。

- WebLogic SPI メトリック番号は **0000** ~ **0999** の範囲です。
- **0700** ~ **0799** の範囲は、ユーザー定義メトリック用に予約されています。

メトリックに対応するモニター テンプレート名は、"**WLSSPI**" で始まり、その後ろにアンダースコアとメトリック番号が続きます。テンプレート名のメトリック番号は、**4** 桁の数値である必要があるためゼロが追加されます (例: メトリック番号 **B001** = モニター テンプレート **WLSSPI_0001**)。

登録アプリケーション レポートの名前には、メトリック番号とメトリック名が使用されます。メトリック番号とメトリック名の間はアンダースコアで区切られます。たとえば、メトリック **5** の場合、レポートは **B005_JVMMemUtilPct** で識別されます。

表 3 メトリック属性の定義

モニター ポリシー名	常に「 WLSSPI 」で始まり、メトリック番号が続きます。モニター テンプレート内では、定義に記述されているように設定を変更できます。たとえば、しきい値や重要度の設定を変更できます。
メトリック名	メトリックに割り当てられた名前。
メトリックタイプ	メトリックの使用法を示します。 <ul style="list-style-type: none">• 警告通知 (モニター テンプレートの設定を使用)• レポート作成 (HP Reporter (別売り) のレポート内)• グラフ作成 (HP Performance Manager (別売り) のグラフ内)
説明	メトリックの意味。
使用可能な WebLogic Server のバージョン	メトリックを使用できる WebLogic Server のバージョン (9.x 、 10.x)。
重要度: しきい値による条件	しきい値を超えた条件に対する重要度 (危険域、重要警戒域、警戒域、注意域、正常域)。段階的なしきい値など、メトリックに複数の条件が定義されている場合、重要度レベルは特定の条件に応じて設定されます。
収集間隔	メトリックを収集して分析する間隔 (5 分 、 15 分 、 1 時間 、 1 日)。
HPOM の最小/最大しきい値	この設定はすべての WebLogic Server メトリックで同じであるため (すべてが最大しきい値)、省略されます。
HPOM のデフォルトのしきい値	メトリックとそれに対応するモニター テンプレートに関する HPOM のデフォルトのしきい値を示します。 HPOM の警告は値以下または値以上にしか設定できないため、しきい値 0 を意味するメトリックでは 0.5 に設定されています。これは、しきい値が 0 に設定されている場合、常に警告が発生するためです。
HPOM のしきい値タイプ	この設定はすべての WebLogic Server メトリックで同じであるため (リセットなし)、省略されます。

表 3 メトリック属性の定義

メッセージグループ	メトリックが属する HPOM メッセージグループ (WLSSPI = WebLogic SPI で発生する条件、WebLogic = WebLogic Server で発生する条件)。
メッセージテキスト	各条件で表示されるメッセージ。
指示文	問題を解決するための情報の日本語訳 (原因、影響、処置、およびレポート)。
レポートタイプ	<p>レポートまたはグラフが使用可能なときにそれらを生成する方法 (登録アプリケーション、自動、オペレータ起動、なし)。</p> <ul style="list-style-type: none"> 登録アプリケーション - HPOM の登録アプリケーションからレポートを生成できます。 自動 - イベントが検出されると、レポートが自動的に生成されます。 オペレータ起動 - レポートまたはグラフは、オペレータによって手動で生成されます。 なし - レポートもグラフも設定されていません。 <p>自動またはオペレータ起動のレポートは、すべて登録アプリケーションで使用できません。ただし、登録アプリケーションのレポートの中には、自動またはオペレータ起動で使用できないものもあります。MEASUREWARE データの収集のみを行うメトリック (警告なし) を使用するレポートには、オペレータ起動アクションまたは自動アクションを使用できる HPOM テンプレートはありません。これらのレポートは、登録アプリケーションでのみ使用できます。</p>
領域	メトリックが対象とする論理的な領域 (可用性、JVM、パフォーマンス、EJB、サーブレット、Web アプリケーション、JMS、JDBC、トランザクション、コネクタ、クラスタ、XML キャッシュ、セキュリティ、タイム サービス、特別なレポート)。

メトリックの詳細

このセクションでは、WebLogic SPI メトリックの詳細を説明します。

メトリック B001_ServerStatus

モニター ポリシー名	WLSSPI_0001
メトリック名	B001_ServerStatus
メトリック タイプ	警告通知
説明	サーバーのステータス、動作状況の監視
使用可能な WebLogic Server のバージョン	9.x、10.x
重要度: しきい値による条件	危険域: WLSSPI-0001.1、しきい値 5 注意域: WLSSPI-0001.2、しきい値 1.5
収集間隔	5 分
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	WLSSPI-0001.1: Server status is unknown (down) [Policy: <\$NAME>] WLSSPI-0001.2: Server status: Suspended [Policy: <\$NAME>]
指示文	<p>原因: このメトリックは、サーバーごとにステータス (実行中 (RUNNING)、シャットダウン処理中、シャットダウン保留中、中断中 (SUSPENDED)、または不明 (UNKNOWN)) をレポートします。</p> <p>サーバーが実行状態にない場合、以下のイベントが発生した可能性があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 WebLogic 管理者が、Administration Console から [このサーバーを正常に停止] を選択しました。 2 WebLogic 管理者が、Administration Console から [このサーバーを正常に停止] を選択しました。 3 その他の理由でサーバーが停止した可能性があります。 <p>影響: サーバーがシャットダウンされているか、シャットダウン処理中の場合、サーバーに接続できなくなります。サーバーが中断されている場合、サーバーは管理サーバーからの要求だけを受け取ります。</p> <p>WebLogic Server を中断すると、HTTP 要求へのサーバー応答だけが中断されます。Java アプリケーションと RMI 呼び出しは中断されません。</p> <p>処置: 指定されたサーバーが実行されていない場合は、WebLogic 管理者が適切なスクリプトを使用してそのサーバーを起動する必要があります。その場合、サーバーが管理サーバーであるか管理対象サーバーであるかによって、起動スクリプトが異なるため、注意してください。</p> <p>サーバーが中断した場合、何らかの理由でその状態に陥った可能性があります。通常、この機能は、WebLogic Server が別のサーバーの「ホット」バックアップとして動作している状況で使用されます。そうしてよい場合は、Administration Console から [このサーバーを再開] コマンドを実行します。</p>
レポート タイプ	なし
領域	可用性

メトリック B002_ServerStatusRep

モニター ポリシー名	なし: レポートの作成に使用
メトリック名	B002_ServerStatusRep
メトリック タイプ	レポート作成
説明	サーバーのステータス: レポート作成
使用可能な WebLogic Server のバージョン	9.x、10.x
重要度: 条件	なし
収集間隔	5 分
メッセージ テキスト	なし
指示文	なし
レポート タイプ	登録アプリケーション レポート (ASCII レポート)
領域	可用性

メトリック B005_JVMMemUtilPct

モニター ポリシー名	WLSSPI_0005
メトリック名	B005_JVMMemUtilPct
メトリック タイプ	警告通知、グラフ作成
説明	JVM で使用される ヒープ空間の割合
使用可能な WebLogic Server のバージョン	9.x、10.x
重要度: 条件	危険域: WLSSPI-0005.1、しきい値 98 重要警戒域: WLSSPI-0005.2、しきい値 95
収集間隔	5 分
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	WLSSPI-0005.1: % of heap space used (<\$VALUE>%) too high (>=<\$THRESHOLD>%) [Policy: <\$NAME>] WLSSPI-0005.2: % of heap space used (<\$VALUE>%) too high (>=<\$THRESHOLD>%) [Policy: <\$NAME>]

指示文	<p>原因: JVM は、使用可能なヒープ領域を使い果たしています。JVM のヒープ サイズの設定が、クライアントの負荷に対して低すぎると思われる。</p> <p>影響: JVM のヒープ サイズによって、VM がガーベジコレクション (未使用の Java オブジェクトの割り当て解除) を行う頻度と期間が決まります。Java プログラムのオブジェクトは Java ヒープに保持されます。実行中のプログラムのポインタからオブジェクトを参照できなくなると、そのオブジェクトはガーベジコレクションの対象になります。</p> <p>ガーベジコレクションはパフォーマンスに影響を与えます。これは、ガーベジコレクションの実行中は、JVM の処理が継続できないからです。ガーベジコレクションによる影響の許容範囲はアプリケーションによって異なるため、実際のガーベジコレクションの実行時間と発生頻度を分析してから調整する必要があります。</p> <p>ヒープ サイズを調整する目的は、ガーベジコレクションに費やす時間を最小にしなが、所定の時間に処理できるクライアントの数を最大にすることです。</p> <p>ヒープ サイズを大きく設定すると、完全なガーベジコレクションの処理速度は遅くなりますが、発生頻度は少なくなります。ヒープ サイズを小さくすると、完全なガーベジコレクションの処理速度は速くなりますが、発生頻度は多くなります。</p> <p>処置: ヒープ サイズの調整については、使用している WebLogic Server バージョンの『パフォーマンスチューニング』を参照してください。このドキュメントは、 http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/index.html から入手できます。</p> <p>サーバーの起動に使用するスクリプトの Java コマンド行で、-Xms および -Xmx オプションを使用してヒープ サイズを設定できます。</p> <p>-Xms オプションを使用して、ヒープの最小サイズを設定します。この値は、1 MB より大きい 1024 の倍数に設定します。</p> <p>-Xmx オプションを使用して、Java ヒープの最大サイズを設定します。この値は、1 MB より大きい 1024 の倍数に設定します。</p> <p>通常は、最小ヒープ サイズと最大ヒープ サイズに同じ値を設定します。Java 1.3 HotSpot JVM を使用している場合は、世代領域のヒープ サイズも設定します。ヒープ サイズは、システムで利用可能な RAM の容量より大きくしないでください。システムがページをディスクにスワップしない範囲で、できるだけ大きなヒープ サイズを使用します。システムでヒープに利用可能な RAM の容量は、ご使用のコンピュータのハードウェア構成と実行中のプロセスのメモリ要件によって異なります。そのため、使用可能な RAM の容量を判断する際は、システム管理者にお問い合わせください。</p> <p>一般的には、オペレーティングシステムや他のプロセスが使用しない RAM の 80% を JVM で使用します。大量の RAM が残っている場合は、より多くの WebLogic Server をコンピュータで実行してください。</p> <p>免責事項: 上記の URL をクリックすると、HP 以外のサイトに移動します。HP は、非 HP サイトのコンテンツを管理していません。</p>
レポート タイプ	登録アプリケーション
領域	JVM

メトリック B010_ExQueThruRate

モニター ポリシー名	なし: レポートおよびグラフの作成に使用
メトリック名	B010_ExQueThruRate
メトリック タイプ	レポート作成、グラフ作成
説明	実行キューで 1 秒あたりに処理される要求の数。WebLogic Server バージョン 9.x および 10.x の実行キューは 1 つのみです。
使用可能な WebLogic Server のバージョン	9.x、10.x
重要度: 条件	なし
収集間隔	15 分
メッセージ グループ	なし
メッセージ テキスト	なし
指示文	なし
レポート タイプ	なし
領域	パフォーマンス

メトリック B011_ExQThrdUtilPct

モニター ポリシー名	WLSSPI_0011
メトリック名	B011_ExQThrdUtilPct
メトリック タイプ	警告通知、レポート作成、グラフ作成
説明	サーバーの実行キューに使用されているスレッドの割合。WebLogic Server バージョン 9.x および 10.x の実行キューは 1 つのみです。
使用可能な WebLogic Server のバージョン	9.x、10.x
重要度: 条件	危険域: WLSSPI-0011.1、しきい値 90 重要警戒域: WLSSPI-0011.2、しきい値 85 警戒域: WLSSPI-0011.3、しきい値 80
収集間隔	15 分
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	WLSSPI-0011.1: % of execute queue threads used (<\$VALUE>%) too high (>=<\$THRESHOLD>%) [Policy: <\$NAME>] WLSSPI-0011.2: % of execute queue threads used (<\$VALUE>%) too high (>=<\$THRESHOLD>%) [Policy: <\$NAME>] WLSSPI-0011.3: % of execute queue threads used (<\$VALUE>%) too high (>=<\$THRESHOLD>%) [Policy: <\$NAME>]

指示文	<p>原因: WebLogic サーバーの実行スレッドの使用率が、しきい値を超えました。クライアントから受信する要求の数が増加したため、すべての実行スレッドが割り当て済みになりました。</p> <p>影響: 100% の使用率では、WebLogic サーバーは受信する要求を処理するためのスレッドを使用できません。</p> <p>処置: 実行スレッド プールの調整については、使用している WebLogic Server バージョンの『パフォーマンス チューニング』を参照してください。このドキュメントは、http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/index.html から入手できます。システム管理者は、Administration Console から実行スレッドの総数を増やすことができます。ただし、多くのスレッドを追加しても、必ずしも多くの作業を処理できるわけではないことに注意してください。多くのスレッドを追加しても、プロセッサのパワーによる制限は残ります。この値を不必要に増やすと、パフォーマンスが低下することもあります。スレッドはメモリを消費するリソースであるため、実行スレッドの数が多すぎると、メモリの使用量が増え、コンテキスト切り替えが増加するため、パフォーマンスが低下します。スレッド数の値は、アプリケーションが行う作業の種類に強く依存します。たとえば、シンクライアントで、クライアントアプリケーションがその作業の多くをリモート呼び出しを通じて行う場合、クライアントアプリケーションが接続に費やす時間は、クライアント側の処理を多く行うクライアントアプリケーションの場合より多くなります。そのため、作業に追加スレッドを使用する必要がない場合は、この属性の値を変更しないでください。スレッドはクライアントアプリケーション用に確保されません。</p> <p>結果が返されるまでに時間のかかるデータベースへの問い合わせを行うアプリケーションの場合、短時間で結果が返される問い合わせをするアプリケーションよりも多くの実行スレッドが必要になります。後者の場合は、少数の実行スレッドを使用するため、より良いパフォーマンスが得られます。</p> <p>Thread Count の設定については、以下のシナリオを指針にしてください。</p> <p>Thread Count < CPU 数: スレッド数を増やす</p> <p>Thread Count = CPU 数: スレッド数を増やす</p> <p>Thread Count > CPU 数 (スレッド数が少し多い): いくらかの調整が必要な場合もあるが、ほぼ理想的</p> <p>Thread Count > CPU 数 (スレッド数が大幅に多い): スレッド数を減らす</p> <p>免責事項: 上記の URL をクリックすると、HP 以外のサイトに移動します。HP は、非 HP サイトのコンテンツを管理していません。</p>
レポート タイプ	登録アプリケーション
領域	パフォーマンス

メトリック B012_ExQueWaitCnt

モニター ポリシー名	WLSSPI_0012
メトリック名	B012_ExQueWaitCnt
メトリック タイプ	警告通知、グラフ作成
説明	このメトリックは、各サーバーでの実行キューとそれに関連するスレッド プールを監視します。特に、処理を待つクライアント要求の数を監視します。
使用可能な WebLogic Server のバージョン	9.x、10.x
重要度: 条件	警戒域: WLSSPI-0012.1、しきい値 10
収集間隔	15 分
メッセージ テキスト	WLSSPI-0012.1: # of requests waiting to be serviced (<\$VALUE>) too high (>=<\$THRESHOLD>) [Policy: <\$NAME>]
指示文	<p>原因: 処理を待つクライアント要求の数がしきい値を超えました。大量の要求を継続的に受信したため、処理が必要な要求数が利用可能なスレッドの数を超えました。</p> <p>影響: クライアントから見たパフォーマンスの低下。</p> <p>処置:</p> <p>クライアント要求が実行スレッドの割り当てを待っていますが、多くのスレッドを追加しても、必ずしも多くの作業を処理できるわけではないことに注意してください。多くのスレッドを追加しても、プロセッサのパワーによる制限は残ります。この値を不必要に増やすと、パフォーマンスが低下することもあります。スレッドはメモリを消費するリソースであるため、実行スレッドの数が多すぎると、メモリの使用量が増え、コンテキスト切り替えが増加するため、パフォーマンスが低下します。</p> <p>この状態が続く場合は、プロセッサ パワーをアップグレードする必要があります。別の解決策はリソースの追加です。WebLogic サーバーがクラスタ内で構成されている場合は、負荷処理能力を高めるために、クラスタに WebLogic サーバーを追加することができます。よく設計されたアプリケーションでは、サーバーの追加でリニアなスケーラビリティが得られます。</p> <p>実行スレッド プールの調整については、使用している WebLogic Server バージョンの『パフォーマンス チューニング』を参照してください。このドキュメントは、http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/index.html から入手できます。</p> <p>免責事項: 上記の URL をクリックすると、HP 以外のサイトに移動します。HP は、非 HP サイトのコンテンツを管理していません。</p>
領域	パフォーマンス

メトリック B013_SocketTrafficRt

モニター ポリシー名	なし: グラフの作成に使用
メトリック名	B013_SocketTrafficRt
メトリック タイプ	グラフ作成
説明	1 秒当たりに開かれるソケット接続の数
使用可能な WebLogic Server のバージョン	9.x、10.x
重要度: 条件	なし
収集間隔	15 分
HPOM のデフォルトのしきい値	なし
メッセージ テキスト	なし
指示文	なし
レポート タイプ	なし
領域	パフォーマンス

メトリック B014_ActiveSocketCnt

モニター ポリシー名	WLSSPI_0014
メトリック名	B014_ActiveSocketCnt
メトリック タイプ	警告通知、グラフ作成
説明	現在開かれているソケット接続の数
使用可能な WebLogic Server のバージョン	9.x、10.x
重要度: 条件	警戒域: WLSSPI-0014.1、しきい値 5
収集間隔	15 分
メッセージ テキスト	WLSSPI-0014.1: # of socket connections currently open (<\$VALUE>) too high (>=<\$THRESHOLD>) [Policy: <\$NAME>]
指示文	<p>原因: オープン ソケットの数が、しきい値を超えました。現在のオープンソケットの数が、その WebLogic サーバーで使用を想定しているオープンソケットの数より大きくなっています。</p> <p>影響: オープンソケットの数が、割り当てられたソケットリーダースレッドの数より大きい場合、受信する要求はソケットリーダースレッドが解放されるまで待機する必要があります。</p> <p>処置: Administration Console からソケットリーダースレッドの数を増やすことを検討してください。使用を想定しているオープンソケットの最大数まで増やすとよいでしょう。実行スレッドをソケットリーダースレッドとして機能するように割り当てると、サーバーがクライアント要求を処理する速度と処理能力が向上します。ただし、ソケットからメッセージを読み込む実行スレッドの数と、実際にサーバーでタスクを実行する実行スレッドの数のバランスをとることが重要です。</p> <p>実行スレッドプールの調整については、使用している WebLogic Server バージョンの『パフォーマンスチューニング』を参照してください。このドキュメントは、http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/index.html から入手できます。</p> <p>免責事項: 上記の URL をクリックすると、HP 以外のサイトに移動します。HP は、非 HP サイトのコンテンツを管理していません。</p>
レポート タイプ	Serverstat グラフのオペレータアクション
領域	パフォーマンス

メトリック B015_SrvrRestartsPct

モニター ポリシー名	WLSSPI_0015
メトリック名	B015_SrvrRestartsPct
メトリック タイプ	警告通知、グラフ作成 (ログの記録のみ。グラフは作成されない)
説明	許容可能な再起動の発生する割合
使用可能な WebLogic Server のバージョン	9.x、10.x
重要度: 条件	危険域: WLSSPI-0015.1、しきい値 90% 注意域: WLSSPI-0015.2、しきい値 70% 重要警戒域: WLSSPI-0015.3、しきい値 50%
収集間隔	15 分
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	WLSSPI-0015.1: % of permissible restarts (<\$VALUE>%) too high (>=<\$THRESHOLD>%) [Policy: <\$NAME>] WLSSPI-0015.2: % of permissible restarts (<\$VALUE>%) too high (>=<\$THRESHOLD>%) [Policy: <\$NAME>] WLSSPI-0015.3: % of permissible restarts (<\$VALUE>%) too high (>=<\$THRESHOLD>%) [Policy: <\$NAME>]
指示文	原因: サーバーの再起動率がしきい値を超えました。 サーバーの再起動率とは、その時間間隔に許可される再起動の最大の割合です。最大値と間隔の両方を WebLogic Server で設定できます。 簡単に言えば、サーバーの再起動の回数が多すぎることを示します。再起動の根本的な原因を確認し、 WebLogic Server で設定した最大値または間隔を上げます。 影響: クラスタ化されたサーバーの場合は、クラスタの動作状況に影響する場合があります。 処置: 再起動の根本的な原因を分析してください。
レポート タイプ	自動アクション: ASCII レポート
領域	パフォーマンス

メトリック B016_GloThrePoolOverload

モニター ポリシー名	WLSSPI_0016
メトリック名	B016_GloThrePoolOverload
メトリック タイプ	警告通知
説明	グローバル スレッド プールのオーバーロード条件
使用可能な WebLogic Server のバージョン	9.x、10.x
重要度: 条件	危険域: WLSSPI-0016.1、しきい値 1.0
収集間隔	15 分
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	WLSSPI-0016.1: Global thread pool overload condition has occurred. Further incoming requests will get rejected. See the annotated reports for details. [Policy: <\$NAME>]
指示文	<p>原因: グローバル スレッド プールのオーバーロード条件に達しました。サーバーに格納できる要求 (キューに入っている、または処理中の要求) の総数を超過しました。</p> <p>影響: これ以降に受信する要求は拒否されます。</p> <p>処置: 実行スレッド プールの調整については、使用している WebLogic Server バージョンの『パフォーマンス チューニング』を参照してください。このドキュメントは、http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/index.html から入手できます。</p> <p>免責事項: 上記の URL をクリックすると、HP 以外のサイトに移動します。HP は、非 HP サイトのコンテンツを管理していません。</p>
レポート タイプ	自動アクション
領域	パフォーマンス

メトリック B017_WorkloadMgrOverload

モニター ポリシー名	WLSSPI_0017
メトリック名	B017_WorkloadMgrOverload
メトリック タイプ	警告通知
説明	Workload Manager のオーバーロード条件
使用可能な WebLogic Server のバージョン	9.x、10.x
重要度: 条件	危険域: WLSSPI-0017.1、しきい値 80%
収集間隔	15 分
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	WLSSPI-0017.1: Workload manager <\$OPTION(workManager)> overload condition has occurred for the application <\$OPTION(appName)>. Further incoming requests will get rejected. See the annotated reports for details. [Policy: <\$NAME>]
指示文	<p>原因: Workload Manager のオーバーロード条件に達しました。対象のワーク マネージャで実行中の要求の数が、並行して要求を実行できるスレッドの最大数として設定された値に非常に近づいています。</p> <p>影響: これ以降に受信する該当アプリケーションに対する要求は拒否されます。</p> <p>処置: 実行スレッド プールの調整については、使用している WebLogic Server バージョンの『パフォーマンス チューニング』を参照してください。このドキュメントは、http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/index.html から入手できます。</p> <p>免責事項: 上記の URL をクリックすると、HP 以外のサイトに移動します。HP は、非 HP サイトのコンテンツを管理していません。</p>
レポート タイプ	自動アクション
領域	パフォーマンス

メトリック B025_EJBFreePoolWtRt

モニター ポリシー名	WLSSPI_025
メトリック名	B025_EJBFreePoolWtRt
メトリック タイプ	警告通知、レポート作成、グラフ作成
説明	フリー プールから EJB Bean を利用できなかった 1 分当たりの回数
使用可能な WebLogic Server のバージョン	9.x、10.x
重要度: 条件	注意域: WLSSPI-0025.1、しきい値 10
収集間隔	15 分
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	WLSSPI-0025.1: # of times per minute no EJBs were available from the free pool (<\$VALUE>/min) too high (>=<\$THRESHOLD>/min) [Policy: <\$NAME>]

指示文	<p>原因: フリー プールから EJB を利用できなかった 1 分あたりの回数が、しきい値を超えました。 max-beans-in-free-pool 要素が低く設定されているか、 EJB クラスのすべてのインスタンスがアクティブになっています。</p> <p>影響: EJB クラスを要求する新しいクライアントは、アクティブな EJB がメソッド呼び出しを完了するまでブロックされます。</p> <p>処置: EJB が作成されると、セッション Bean のインスタンスが作成され、識別情報が与えられます。クライアントが Bean を削除すると、その Bean のインスタンスがフリー プールに置かれます。続けて Bean を作成するときは、フリー プールにある前のインスタンスを再利用して、オブジェクトの割り当てを避けることができます。 EJB の作成と削除が頻繁に行われる場合は、 max-beans-in-free-pool 要素でパフォーマンスを改善できます。</p> <p>コンテナは、メッセージの並行処理を行うために、必要に応じてメッセージ Bean の新規インスタンスを作成します。 max-beans-in-pool 要素が、これらのインスタンスの最大作成数に関する制限を設定します。コンテナは、使用できる実行時のリソースに応じてこの設定を無効にできます。</p> <p>ステートレスなセッション Bean とメッセージ Bean のパフォーマンスを最高にするために、 max-beans-in-free-pool 要素のデフォルト設定を使用してください (デフォルトは制限なしです)。こうすれば、利用可能なスレッドとともに、できるだけ多くの Bean を並行して実行できます。</p> <p>設定の変更が必要になるケースは、並行して実行する Bean の数を制限するか、基になるリソースへのアクセスを制限する場合だけです。たとえば、ステートレス session EJB を使用してレガシー接続プールを実装する場合は、レガシー システムでサポートできる接続数を超えて Bean のインスタンスを割り当てないでください。</p> <p>EJB パラメータの調整については、使用している WebLogic Server バージョンの『パフォーマンス チューニング』を参照してください。このドキュメントは、 http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/index.html から入手できます。</p> <p>免責事項: 上記の URL をクリックすると、HP 以外のサイトに移動します。HP は、非 HP サイトのコンテンツを管理していません。</p>
レポート タイプ	オペレータ起動グラフ
領域	EJB

メトリック B225_EJBFreePoolWaitRate

モニター ポリシー名	WLSSPI_0225
メトリック名	B225_EJBFreePoolWaitRate
メトリック タイプ	警告通知
説明	フリー プールから EJB Bean を利用できなかった 1 分あたりの回数 (ドリル ダウン)
使用可能な WebLogic Server のバージョン	9.x、10.x
重要度: 条件	注意域: WLSSPI-0225.1、しきい値 10
収集間隔	15 分
HPOM のデフォルトのしきい値	10
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	WLSSPI-0225.1: # of times per minute no EJBs were available from the free pool (<\$VALUE>/min) for application (<\$OPTION(applicationname)>) too high (>=<\$THRESHOLD>/min) [Policy: <\$NAME>]

指示文	<p>原因: フリー プールから EJB を利用できなかった 1 分あたりの回数が、しきい値を超えました。max-beans-in-free-pool 要素が低く設定されているか、EJB クラスのすべてのインスタンスがアクティブになっています。</p> <p>影響: EJB クラスを要求する新しいクライアントは、アクティブな EJB がメソッド呼び出しを完了するまでブロックされます。</p> <p>処置: EJB が作成されると、セッション Bean のインスタンスが作成され、識別情報が与えられます。クライアントが Bean を削除すると、その Bean のインスタンスがフリー プールに置かれます。続けて Bean を作成するときは、フリー プールにある前のインスタンスを再利用して、オブジェクトの割り当てを避けることができます。EJB の作成と削除が頻繁に行われる場合は、max-beans-in-free-pool 要素でパフォーマンスを改善できます。</p> <p>コンテナは、メッセージの並行処理を行うために、必要に応じてメッセージ Bean の新規インスタンスを作成します。max-beans-in-pool 要素が、これらのインスタンスの最大作成数に関する制限を設定します。コンテナは、使用できる実行時のリソースに応じてこの設定を無効にできます。</p> <p>ステートレスなセッション Bean とメッセージ Bean のパフォーマンスを最高にするために、max-beans-in-free-pool 要素のデフォルト設定を使用してください(デフォルトは制限なしです)。こうすれば、利用可能なスレッドとともに、できるだけ多くの Bean を並行して実行できます。</p> <p>設定の変更が必要になるケースは、並行して実行する Bean の数を制限するか、基になるリソースへのアクセスを制限する場合だけです。たとえば、ステートレス session EJB を使用してレガシー接続プールを実装する場合は、レガシー システムでサポートできる接続数を超えて Bean のインスタンスを割り当てないでください。</p> <p>EJB パラメータの調整については、使用している WebLogic Server バージョンの『パフォーマンス チューニング』を参照してください。このドキュメントは、 http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/index.html から入手できます。</p> <p>免責事項: 上記の URL をクリックすると、HP 以外のサイトに移動します。HP は、非 HP サイトのコンテンツを管理していません。</p>
レポート タイプ	なし
領域	EJB

メトリック B026_EJBTimeoutRt

モニター ポリシー名	WLSSPI_0026
メトリック名	B026_EJBTimeoutRt
メトリック タイプ	警告通知、レポート作成、グラフ作成
説明	EJB Bean の待機中にクライアントがタイムアウトした 1 分あたりの回数
使用可能な WebLogic Server のバージョン	9.x、10.x
重要度: 条件	注意域: WLSSPI-0026.1、しきい値 10
収集間隔	15 分
HPOM のデフォルトのしきい値	10
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	WLSSPI-0226.1: # of times per minute a client timed out waiting for an EJB (<\$VALUE>) too high (>=<\$THRESHOLD>) [Policy: <\$NAME>]
指示文	<p>原因: EJB の待機中にクライアントがタイムアウトした 1 分あたりの回数が、しきい値を超えました。EJB クラスのインスタンスがすべてアクティブで、max-beans-in-free-pool に達した場合、EJB クラスを要求する新しいクライアントはアクティブな EJB がメソッド呼び出しを完了するまでブロックされます。</p> <p>影響: トランザクションがタイムアウトすると (非トランザクション呼び出しの場合は、5 分経過すると)、WebLogic Server は RemoteException をスローします。</p> <p>処置: max-beans-in-free-pool 要素の設定が低すぎないことを確認します。また、bean のインスタンスが使用できない場合、WebLogic Server は新しいインスタンスを割り当てようとしていますが、実際には実行可能なスレッドの数によって制限されます。ほとんどの場合、各スレッドには最大で 1 つの bean インスタンスが必要です。</p> <p>EJB パラメータの調整については、使用している WebLogic Server バージョンの『パフォーマンス チューニング』を参照してください。このドキュメントは、http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/index.html から入手できます。</p> <p>免責事項: 上記の URL をクリックすると、HP 以外のサイトに移動します。HP は、非 HP サイトのコンテンツを管理していません。</p>
レポート タイプ	オペレータ起動グラフ
領域	EJB

メトリック B226_EJBTimeoutRate

モニター ポリシー名	WLSSPI_0226
メトリック名	B226_EJBTimeoutRate
メトリック タイプ	警告通知
説明	EJB Bean の待機中にクライアントがタイムアウトした 1 分あたりの回数 (ドリル ダウン)
使用可能な WebLogic Server のバージョン	9.x、10.x
重要度: 条件	注意域: WLSSPI-0226.1、しきい値 10
収集間隔	15 分
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	WLSSPI-0226.1: # of times per minute a client timed out for application (<\$OPTION(applicationname)>) waiting for an EJB (<\$VALUE>) too high (>=<\$THRESHOLD>) [Policy: <\$NAME>]
指示文	<p>原因: EJB の待機中にクライアントがタイムアウトした 1 分あたりの回数が、しきい値を超えました。EJB クラスのインスタンスがすべてアクティブで、max-beans-in-free-pool に達した場合、EJB クラスを要求する新しいクライアントはアクティブな EJB がメソッド呼び出しを完了するまでブロックされます。</p> <p>影響: トランザクションがタイムアウトすると (非トランザクション呼び出しの場合は、5 分経過すると)、WebLogic Server は RemoteException をスローします。</p> <p>処置: max-beans-in-free-pool 要素の設定が低すぎないことを確認します。また、bean のインスタンスが使用できない場合、WebLogic Server は新しいインスタンスを割り当てようとしますが、実際には実行可能なスレッドの数によって制限されます。ほとんどの場合、各スレッドには最大で 1 つの bean インスタンスが必要です。</p> <p>EJB パラメータの調整については、使用している WebLogic Server バージョンの『パフォーマンス チューニング』を参照してください。このドキュメントは、http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/index.html から入手できます。</p> <p>免責事項: 上記の URL をクリックすると、HP 以外のサイトに移動します。HP は、非 HP サイトのコンテンツを管理していません。</p>
レポート タイプ	自動アクション: ASCII レポート
領域	EJB

メトリック B035_EJBTranThruRt

モニター ポリシー名	WLSSPI_0035
メトリック名	B035_EJBTranThruRt
メトリック タイプ	警告通知、レポート作成、グラフ作成
説明	1 秒当たりの EJB トランザクションの数
使用可能な WebLogic Server のバージョン	9.x、10.x
重要度: 条件	注意域: WLSSPI-0035.1、しきい値 10000
収集間隔	15 分
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	WLSSPI-0035.1: # of EJB transactions per second (<\$VALUE>/sec) too high (>=<\$THRESHOLD>/sec) [Policy: <\$NAME>]
指示文	<p>原因:</p> <ul style="list-style-type: none"> • プールされた状態に十分なエンティティ Beans が存在しません。 • エンティティ Bean プール サイズが小さい値に設定されています。 <p>影響:</p> <ul style="list-style-type: none"> • JVM ヒープ空間が急速に減少する可能性があります。 • JVM ガーベジ コレクションの呼び出しの頻度が高くなります。 <p>処置: エンティティ Bean プール サイズの設定を確認してください。</p>
レポート タイプ	登録アプリケーション: ASCII レポート
領域	EJB

メトリック B036_EJBTranRbRt

モニター ポリシー名	WLSSPI_0036
メトリック名	B036_EJBTranRbRt
メトリック タイプ	警告通知、レポート作成、グラフ作成
説明	1 秒当たりの、ロールバックされる EJB トランザクションの数
使用可能な WebLogic Server のバージョン	9.x、10.x
重要度: 条件	注意域: WLSSPI-0036.1、しきい値 1
収集間隔	15 分
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	WLSSPI-0036.1: # of EJB transactions rolled back per second (<\$VALUE>/sec) too high (>=<\$THRESHOLD>/sec [Policy: <\$NAME>]
指示文	<p>原因: 1 秒あたりにロールバックした EJB トランザクションの数が、しきい値を超えました。アプリケーションの設計かリソースの問題です。ロールバックの原因については、メトリック 72 ~ 75 を参照してください。</p> <p>影響: 正常に終了するユーザー要求が減少します。</p> <p>処置: WebLogic 管理者は、必要なデータベース システムをチェックし、正常に機能することを確認してください。また、管理者は Administration Console からトランザクションを監視することができます。</p> <p>これには以下のものが含まれます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ロールバックと時間のアクティブな情報など、名前ごとのトランザクション 2 全トランザクションと、コミット、ロールバックされたトランザクションに関する統計情報など、リソースごとのトランザクション 3 ステータス、サーバー、リソース、プロパティ、トランザクション識別子に関する情報など、すべてのアクティブなトランザクション
レポート タイプ	登録アプリケーション: ASCII レポート
領域	EJB

メトリック B238_EJBCacheHitPct

モニター ポリシー名	WLSSPI_0238
メトリック名	B238_EJBCacheHitPct
メトリック タイプ	警告通知、レポート作成
説明	使用中のキャッシュ内の EJB の割合
使用可能な WebLogic Server のバージョン	9.x、10.x
重要度: 条件	注意域: WLSSPI-0238.1、しきい値 90
収集間隔	15 分
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	WLSSPI-0238.1: % of EJBs in the cache in use (<\$VALUE>%) for application (<\$OPTION(applicationname)>) too high (>=<\$THRESHOLD>%) [Policy: <\$NAME>]
指示文	<p>原因: EJB キャッシュの使用率が、しきい値を超えました。キャッシュサイズの設定が低すぎる可能性があります。</p> <p>影響: 最大キャッシュサイズに達すると、WebLogic Server は、最近クライアントに使用されていない EJB の一部をパッシベーション (メモリから 2 次記憶領域に転送) するため、パフォーマンスが低下します。</p> <p>処置: weblogic- ejb-jar.xml ファイルの max-beans-in-cache 属性を高い値に設定します。ただし、この値を高く設定しすぎると、不必要にメモリが消費されることがあるので注意が必要です。EJB パラメータの調整については、使用している WebLogic Server バージョンの『パフォーマンス チューニング』を参照してください。このドキュメントは、http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/index.html から入手できます。</p> <p>免責事項: 上記の URL をクリックすると、HP 以外のサイトに移動します。HP は、非 HP サイトのコンテンツを管理していません。</p>
レポート タイプ	自動アクション: ASCII レポート
領域	EJB

メトリック B240_ServletAveExecTime

モニター ポリシー名	WLSSPI_0240
メトリック名	B240_ServletAveExecTime
メトリック タイプ	警告通知、レポート作成
説明	サーブレットの平均実行時間(ミリ秒)
使用可能な WebLogic Server のバージョン	9.x、10.x
重要度: 条件	注意域: WLSSPI-0240.1、しきい値 1000
収集間隔	1 時間
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	WLSSPI-0240.1: Ave. execution time for a servlet (<\$VALUE>ms) belongs to application <\$OPTION(applicationname)> too high (>=<\$THRESHOLD>ms) [Policy: <\$NAME>]
指示文	<p>原因: サーブレットの平均実行時間が、しきい値を超えました。アプリケーションの設計に問題があります。</p> <p>影響: クライアント アプリケーションからの HTTP 要求に HTML または XML 応答が返る時間が遅くなります。</p> <p>処置: サーブレットの実行時間が長くなる原因には、リソースの競合が発生しているか、サーブレットの設計に問題があると考えられます。値が常にしきい値を超える場合は、このメトリックのしきい値の設定を再評価することもできます。</p> <p>Web ベースのアプリケーションで JSP が多用される場合は、対応する .jsp ファイルを Java サーブレットにコンパイルし、Java コードを Java クラス ファイルにコンパイルしなければならないため、パフォーマンスに影響を与えている可能性があります。この場合、サーバーの Java コンパイラを javac ではなく sj または jikes に設定することで、パフォーマンスが大幅に改善されます。</p>
レポート タイプ	登録アプリケーション: ASCII レポート
領域	サーブレット

メトリック B241_ServletTimeCnt

モニター ポリシー名	なし: レポートの作成に使用
メトリック名	B241_ServletTimeCnt
メトリック タイプ	レポート作成
説明	サーブレットで費やされる時間
使用可能な WebLogic Server のバージョン	9.x、10.x
重要度: 条件	なし
収集間隔	1 時間
メッセージ グループ	なし
メッセージ テキスト	なし
指示文	なし
レポート タイプ	なし
領域	サーブレット

メトリック B242_ServletReqRate

モニター ポリシー名	WLSSPI_0242
メトリック名	B242_ServletReqRate
メトリック タイプ	警告通知、レポート作成
説明	1 秒あたりのサーブレットの要求数
使用可能な WebLogic Server のバージョン	9.x、10.x
重要度: 条件	注意域: WLSSPI-0242.1、しきい値 10000
収集間隔	1 時間
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	WLSSPI-0242.1: # of requests for application (<\$OPTION(applicationname)>) for a servlet (<\$VALUE>/sec) too high (>=<\$THRESHOLD>/sec) [Policy: <\$NAME>]
指示文	原因: クライアントのトランザクションが突然増加しました。 影響: サーブレットの平均応答時間が増加する可能性があります。 処置: クラスタ環境の場合は、負荷分散装置のパフォーマンスを継続的に確認してください。
レポート タイプ	登録アプリケーション: ASCII レポート
領域	サーブレット

メトリック B245_WebAppSessionCnt

モニター ポリシー名	WLSSPI_0245
メトリック名	B245_WebAppSessionCnt
メトリック タイプ	警告通知、レポート作成
説明	Web アプリケーションのオープン セッションの数
使用可能な WebLogic Server のバージョン	9.x、10.x
重要度: 条件	注意域: WLSSPI-0245.1、しきい値 100
収集間隔	5 分
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	WLSSPI-0245.1: # of open sessions for a web application (<\$VALUE>) too high (>=<\$THRESHOLD>) [Policy: <\$NAME>]
指示文	<p>原因: クライアントのトランザクションが突然増加しました。</p> <p>影響:</p> <ul style="list-style-type: none"> • JVM ヒープ空間が急速に減少する可能性があります。 • JVM ガーベジ コレクションの呼び出しの頻度が高くなります。 <p>処置: 作成したクライアント接続数を確認してください。</p>
レポート タイプ	登録アプリケーション: ASCII レポート
領域	Web アプリケーション

メトリック B246_WebAppHitRt

モニター ポリシー名	なし: レポートの作成に使用
メトリック名	B246_WebAppHitRt
メトリック タイプ	レポート作成
説明	Web アプリケーションが実行している 1 秒あたりのオープン セッションの数
使用可能な WebLogic Server のバージョン	9.x、10.x
重要度: 条件	なし
収集間隔	5 分
メッセージ グループ	なし
メッセージ テキスト	なし
指示文	なし
レポート タイプ	登録アプリケーション: ASCII レポート
領域	Web アプリケーション

メトリック B251_JMSUtilByMessagePct

モニター ポリシー名	WLSSPI_0251
メトリック名	B251_JMSUtilByMessagePct
メトリック タイプ	警告通知、レポート作成
説明	<p>いっぱいになった JMS サーバーの割合 (メッセージ数ベース)。</p> <p>このメトリックを使用して Reporter データを記録し、しきい値を監視するには、Messages Maximum (JMS サーバーに格納できる最大メッセージ数の割り当て) を 0 より大きい数値に設定する必要があります。この値は、WebLogic コンソールで設定します。</p> <p>Messages Maximum の値がデフォルト値 (-1) の場合、データは記録されず、しきい値は監視されません。</p>
使用可能な WebLogic Server のバージョン	9.x、10.x
重要度: 条件	危険域: WLSSPI-0251.1、しきい値 98% 重要警戒域: WLSSPI-0251.2、しきい値 95%
収集間隔	15 分
メッセージ グループ	WebLogic

メッセージ テキスト	<p>WLSSPI-0251.1: % of JMS queue filled by message count (<\$VALUE>%) too high (>=<\$THRESHOLD>%) [Policy: <\$NAME>]</p> <p>WLSSPI-0251.2: % of JMS queue filled by message count (<\$VALUE>%) too high (>=<\$THRESHOLD>%) [Policy: <\$NAME>]</p>
指示文	<p>原因: JMS サーバーのキュー使用率が、しきい値より大きくなっています。キューのサイズの設定が低すぎる可能性があります。</p> <p>影響: キューの使用率が 100% に達すると、ユーザーはそのキューにメッセージを配布できなくなります。</p> <p>処置: 可能な場合は、管理者は Administration Console を使用してキューのサイズを増やすことができます。また、管理者はそのコンソールを使用して JMS サーバー内の個々の送り先を調べて、どの送り先キューに問題があるかを判定することもできます。</p>
レポート タイプ	登録アプリケーション: ASCII レポート
領域	Java Message Service (JMS)

メトリック B252_JMSUtilByBytePct

モニター ポリシー名	WLSSPI_0252
メトリック名	B252_JMSUtilByBytePct
メトリック タイプ	警告通知、レポート作成
説明	<p>いっぱいになった JMS サーバーの割合 (総バイト数ベース)。</p> <p>このメトリックを使用して Reporter データを記録し、しきい値を監視するには、Bytes Maximum (JMS サーバーに格納できる最大バイト数の割り当て) を 0 より大きい数値に設定する必要があります。この値は、WebLogic コンソールで設定します。</p> <p>Bytes Maximum の値がデフォルト値 (-1) の場合、データは記録されず、しきい値は監視されません。</p>
使用可能な WebLogic Server のバージョン	9.x、10.x
重要度: 条件	<p>危険域: WLSSPI-0252.1、しきい値 98%</p> <p>重要警戒域: WLSSPI-0252.2、しきい値 95%</p>
収集間隔	15 分
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	WLSSPI-0252.1: % of JMS queue filled by byte count (<\$VALUE>%) too high (>=<\$THRESHOLD>%) [Policy: <\$NAME>]
指示文	<p>原因: JMS サーバーのキュー使用率が、しきい値より大きくなっています。キューのサイズの設定が低すぎる可能性があります。</p> <p>影響: キューの使用率が 100% に達すると、ユーザーはそのキューにメッセージを配布できなくなります。</p> <p>処置: 可能な場合は、管理者は Administration Console を使用してキューのサイズを増やすことができます。また、管理者はそのコンソールを使用して JMS サーバー内の個々の送り先を調べて、どの送り先キューに問題があるかを判定することもできます。</p>
レポート タイプ	ASCII レポート
領域	Java Message Service (JMS)

メトリック B253_JMSThreshByMessagePct

モニター ポリシー名	WLSSPI_0253
メトリック名	B253_JMSThreshByMessagePct
メトリック タイプ	警告通知、レポート作成
説明	サーバーで設定したしきい値条件に達した時間の割合 (メッセージ数ベース)
使用可能な WebLogic Server のバージョン	9.x、10.x
重要度: 条件	注意域: WLSSPI-0253.1、しきい値 10%
収集間隔	15 分
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	WLSSPI-0253.1: # of time queue threshold condition was satisfied by message count (<\$VALUE>%) too high (>=<\$THRESHOLD>%) [Policy: <\$NAME>]
指示文	<p>原因: JMS キューがしきい値条件に達した時間が、しきい値を超えました。保存されたメッセージの数が、Administration Console で設定した JMS サーバーのメッセージキューのしきい値条件に、達した状態で長時間が経過しました。</p> <p>影響: キューの使用率が 100% に達すると、ユーザーはそのキューにメッセージを配布できなくなります。</p> <p>処置: 可能な場合は、管理者は Administration Console を使用してキューのサイズを増やすことができます。また、管理者はそのコンソールを使用して JMS サーバー内の個々の送り先を調べて、どの送り先キューに問題があるかを判定することもできます。</p>
レポート タイプ	登録アプリケーション: ASCII レポート
領域	Java Message Service (JMS)

メトリック B254_JMSThreshByBytePct

モニター ポリシー名	WLSSPI_0254
メトリック名	B254_JMSThreshByBytePct
メトリック タイプ	警告通知、レポート作成
説明	サーバーで設定したしきい値条件に達した時間の割合 (総バイト数ベース)
使用可能な WebLogic Server のバージョン	9.x、10.x
重要度: 条件	注意域: WLSSPI-0254.1、しきい値 10%
収集間隔	15 分
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	WLSSPI-0254.1: # of time queue threshold condition was satisfied by byte count (<\$VALUE>%) too high (>=<\$THRESHOLD>%) [Policy: <\$NAME>]
指示文	<p>原因: JMS キューがしきい値条件に達した時間が、しきい値を超えました。保存されたメッセージのバイト数が、Administration Console で設定した JMS サーバーのメッセージ キューのしきい値条件に達した状態で、長時間が経過しました。</p> <p>影響: キューの使用率が 100% に達すると、ユーザーはそのキューにメッセージを配布できなくなります。</p> <p>処置: 可能な場合は、管理者は Administration Console を使用してキューのサイズを増やすことができます。また、管理者はそのコンソールを使用して JMS サーバー内の個々の送り先を調べて、どの送り先キューに問題があるかを判定することもできます。</p>
レポート タイプ	登録アプリケーション レポート (ASCII レポート)
領域	Java Message Service (JMS)

メトリック B255_JMSSThruMessageRt

モニター ポリシー名	なし: レポートの作成に使用
メトリック名	B255_JMSSThruMessageRt
メトリック タイプ	レポート作成
説明	1 秒あたりに JMS サーバーを通じて渡されたメッセージの数
使用可能な WebLogic Server のバージョン	9.x、10.x
重要度: 条件	なし
収集間隔	15 分
メッセージ グループ	なし
メッセージ テキスト	なし
指示文	なし
レポート タイプ	登録アプリケーション: ASCII レポート
領域	Java Message Service (JMS)

メトリック B256_JMSSThruByteRt

モニター ポリシー名	なし: レポートの作成に使用
メトリック名	B256_JMSSThruByteRt
メトリック タイプ	レポート作成
説明	1 秒あたりに JMS サーバーを通じて渡されたバイト数
使用可能な WebLogic Server のバージョン	9.x、10.x
重要度: 条件	なし
収集間隔	15 分
メッセージ グループ	なし
メッセージ テキスト	なし
指示文	なし
レポート タイプ	登録アプリケーション: ASCII レポート
領域	Java Message Service (JMS)

メトリック B260_JDBConnectionPoolUtil

モニター ポリシー名	WLSSPI_0260
メトリック名	B260_JDBConnectionPoolUtil
メトリック タイプ	警告通知、レポート作成
説明	接続プール内の使用可能な JDBC 接続の使用率
使用可能な WebLogic Server のバージョン	9.x、10.x
重要度: 条件	危険域: WLSSPI-0260.1、しきい値 98% 重要警戒域: WLSSPI-0260.2、しきい値 95%
収集間隔	5 分
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	WLSSPI-0260.1: % utilization of available JDBC connections in connection pool (<\$VALUE>%) for application (<\$OPTION(applicationname)>) too high (>=<\$THRESHOLD>%) [Policy: <\$NAME>]
指示文	<p>原因: JDBC 接続プールの使用率が、しきい値を超えました。使用可能な JDBC 接続の数が少なすぎます。</p> <p>影響: DBMS への JDBC 接続を待たなければならないため、パフォーマンスが低下します。</p> <p>処置: データベース システムに接続数を追加できる場合、WebLogic 管理者はその接続プールに使用できる接続数を増やしてください。経験則では、接続プールの最大サイズを、WebLogic Server で構成された実行スレッドの数に等しくするべきです。これは、各スレッドが 1 つのトランザクションを使用して要求を処理するため、1 つの接続だけが必要であることを前提にしています。そうでない場合は、接続プールがやや大きい方が効率的でしょう。</p> <p>接続プールの最小サイズを最大サイズと同じにすれば、サーバーが高負荷状態時ではなく、サーバーの起動時にすべてのデータベース接続が取得されることが保証されます。</p>
レポート タイプ	登録アプリケーション: ASCII レポート
領域	JDBC

メトリック B061_JDBCConPIWtCnt

モニター ポリシー名	WLSSPI_0061
メトリック名	B061_JDBCConPIWtCnt
メトリック タイプ	警告通知、グラフ作成
説明	接続プールからの接続を取得するために待機しているクライアントの数
使用可能な WebLogic Server のバージョン	9.x、10.x
重要度: 条件	注意域: WLSSPI-0061.1、しきい値 10
収集間隔	5 分
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	WLSSPI-0061.1: # of clients waiting for a connection from connection pools (<\$VALUE>) too high (>=<\$THRESHOLD>) [Policy: <\$NAME>]
指示文	<p>原因: 接続を待つクライアントの数が、しきい値を超えました。JDBC 接続を要求する現在のクライアント セッション数に比べて、接続プールのサイズが小さすぎます。</p> <p>影響: クライアントの接続要求は、接続プールからの使用可能な接続を取得するために待機しなければなりません。</p> <p>処置: 接続プールの最大サイズを増やします。経験則では、接続プールの最大サイズを、WebLogic Server で構成された実行スレッドの数に等しくする必要があります。これは、各スレッドが 1 つのトランザクションを使用して要求を処理するため、1 つの接続だけが必要であることを前提にしています。そうでない場合は、接続プールがやや大きい方が効率的でしょう。</p> <p>接続プールの最小サイズを最大サイズと同じにすれば、サーバーが高負荷状態時ではなく、サーバーの起動時にすべてのデータベース接続が取得されることが保証されます。</p>
レポート タイプ	オペレータ起動グラフ
領域	JDBC

メトリック B262_JDBCConnectionPoolThruRt

モニター ポリシー名	なし: レポートの作成に使用
メトリック名	B262_JDBCConnectionPoolThruRt
メトリック タイプ	レポート作成
説明	1 秒あたりに接続プールで処理されるクライアントの数
使用可能な WebLogic Server のバージョン	9.x、10.x
重要度: 条件	なし
収集間隔	5 分
メッセージ グループ	なし
メッセージ テキスト	なし
指示文	なし
レポート タイプ	登録アプリケーション: ASCII レポート
領域	JDBC

メトリック B063_JDBCConnectionPoolLeakedConnectionsRtSum

モニター ポリシー名	なし: グラフの作成に使用
メトリック名	B063_JDBCConnectionPoolLeakedConnectionsRtSum
メトリック タイプ	グラフ作成
説明	接続プール内で閉じられていない JDBC 接続と、最大待ち時間を越えた JDBC 接続の 1 分あたりの数
使用可能な WebLogic Server のバージョン	9.x、10.x
重要度: 条件	なし
収集間隔	5 分
メッセージ グループ	なし
メッセージ テキスト	なし
指示文	なし
レポート タイプ	なし
領域	JDBC

メトリック B263_JDBCConnectionPoolLeakedConnectionsRt

モニター ポリシー名	WLSSPI_0263
メトリック名	B263_JDBCConnectionPoolLeakedConnectionsRt
メトリック タイプ	警告通知、レポート作成 (ログの記録のみ。レポートは作成されない)
説明	JDBC 接続プールのリークした接続の割合
使用可能な WebLogic Server のバージョン	9.x、10.x
重要度: 条件	注意域: WLSSPI-0263.1、しきい値 100
収集間隔	5 分
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	WLSSPI-0263.1: Rate of leaked connections for the JDBC connection pool(<\$VALUE>) belongs to application (<\$OPTION(applicationname)>) too high (>=<\$THRESHOLD>) [Policy: <\$NAME>]
指示文	<p>原因: 新たにリークした JDBC 接続の割合が、しきい値を超えました。JDBC 接続リークは、接続プールからチェックアウトしたが、close() メソッドで戻っていない接続を表します。リークした接続は、その後の接続要求の処理には使用できません。</p> <p>影響: 接続が閉じられると、その接続は今後の接続要求に使用できません。アプリケーションが接続を閉じるのに失敗すると、接続プールの使用可能な接続を使い果たしてしまい、その後の接続要求が失敗することがあります。</p> <p>処置: 不具合のあるアプリケーション コンポーネントを修正します。接続プールは、すぐに使用できる接続のプールをデータベースに提供するため、アプリケーションが必要なときに接続を作成するオーバーヘッドがなくなります。接続が必要なくなれば、アプリケーションはその接続を接続プールに戻さなければなりません。</p> <p>JDBC 接続の管理については、使用している WebLogic Server バージョンの『<i>WebLogic JDBC プログラマーズガイド</i>』を参照してください。このドキュメントは、http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/index.html から入手できます。</p> <p>免責事項: 上記の URL をクリックすると、HP 以外のサイトに移動します。HP は、非 HP サイトのコンテンツを管理していません。</p>
レポート タイプ	自動アクション: ASCII レポート
領域	JDBC

メトリック B264_JDBCConnectionPoolFailures

モニター ポリシー名	WLSSPI_0264
メトリック名	B264_JDBCConnectionPoolFailures
メトリック タイプ	警告通知
説明	JDBC 接続プールの障害
使用可能な WebLogic Server のバージョン	9.x、10.x
重要度: 条件	注意域: WLSSPI-0264.1、しきい値 10
収集間隔	5 分
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	WLSSPI-0264.1: JDBC connection pool failures (<\$VALUE>) for application (<\$OPTION(applicationname)>) too high (>=<\$THRESHOLD>) [Policy: <\$NAME>]
指示文	<p>原因: 接続プールがデータベースへの接続を更新しようとして失敗した回数が、しきい値を超えました。この障害は、データベースが利用不能、またはデータベースへの接続が切断されている場合に発生することがあります。</p> <p>影響: クライアントのデータベースへの接続要求が失敗します。</p> <p>処置: JDBC 接続の管理については、使用している WebLogic Server バージョンの『<i>WebLogic JDBC プログラマーズ ガイド</i>』を参照してください。このドキュメントは、http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/index.html から入手できます。</p> <p>免責事項: 上記の URL をクリックすると、HP 以外のサイトに移動します。HP は、非 HP サイトのコンテンツを管理していません。</p>
レポート タイプ	自動アクション: ASCII レポート
領域	JDBC

メトリック B265_JDBCConnectionPoolAvgConnectionDelayTime

モニター ポリシー名	WLSSPI_0265
メトリック名	B265_JDBCConnectionPoolAvgConnectionDelayTime
メトリック タイプ	警告通知、レポート作成 (ログの記録のみ。レポートは作成されない)
説明	説明 JDBC 接続プールの接続遅延 (ミリ秒)
使用可能な WebLogic Server のバージョン	9.x、10.x
重要度: 条件	注意域: WLSSPI-0265.1、しきい値 10
収集間隔	5 分
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	WLSSPI-0265.1: JDBC connection pool connection delay (<\$VALUE>) for application (<\$OPTION(applicationname)>) too high (>=<\$THRESHOLD>) [Policy: <\$NAME>]
指示文	<p>原因: データベースから物理的な接続を取得するのに要する平均時間が、しきい値を超えました。</p> <p>影響: アプリケーションの応答時間が大幅に増加する可能性があります。</p> <p>処置: JDBC 接続の管理については、使用している WebLogic Server バージョンの『<i>WebLogic JDBC プログラマーズガイド</i>』を参照してください。このドキュメントは、http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/index.html から入手できます。</p> <p>免責事項: 上記の URL をクリックすると、HP 以外のサイトに移動します。HP は、非 HP サイトのコンテンツを管理していません。</p>
レポート タイプ	自動アクション: ASCII レポート
領域	JDBC

メトリック B070_TransAveTime

モニター ポリシー名	WLSSPI_0070
メトリック名	B070_TransAveTime
メトリック タイプ	警告通知、レポート作成、グラフ作成
説明	トランザクションの平均コミット時間
使用可能な WebLogic Server のバージョン	9.x、10.x
重要度: 条件	警戒域: WLSSPI-0070.1、しきい値 100 ミリ秒
収集間隔	5 分
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	WLSSPI-0070.1: Ave. commit time for transactions (<\$VALUE>ms) too high (>=<\$THRESHOLD>ms) [Policy: <\$NAME>]
指示文	<p>原因: トランザクションの平均コミット時間が、しきい値を超えました。これは、システムが高負荷状態にあることを示しています。</p> <p>影響: WebLogic Server のトランザクション スループットの低下。</p> <p>処置: 管理者は、Administration Console から個々のトランザクションを監視することができます。統計情報以外に、以下の情報も表示できます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ロールバックと時間のアクティブな情報など、名前ごとのトランザクション 2 全トランザクションと、コミット、ロールバックされたトランザクションに関する統計情報など、リソースごとのトランザクション 3 ステータス、サーバー、リソース、プロパティ、トランザクション識別子に関する情報など、すべてのアクティブなトランザクション
レポート タイプ	登録アプリケーション: ASCII レポート
領域	トランザクション

メトリック B270_ConnectorConnectionPoolUtil

モニター ポリシー名	WLSSPI_0270
メトリック名	B270_ConnectorConnectionPoolUtil
メトリック タイプ	警告通知、レポート作成 (ログの記録のみ。レポートは作成されない)
説明	接続プール内の使用可能な JCA 接続の使用率
使用可能な WebLogic Server のバージョン	9.x、10.x
重要度: 条件	危険域: WLSSPI-0270.1、しきい値 98 重要警戒域: WLSSPI-0270.2、しきい値 95

収集間隔	5 分
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	<p>WLSSPI-0270.1: % utilization of available JCA connections in connection pool (<\$VALUE>%) too high (>=<\$THRESHOLD>%) [Policy: <\$NAME>]</p> <p>WLSSPI-0270.2: % utilization of available JCA connections in connection pool (<\$VALUE>%) too high (>=<\$THRESHOLD>%) [Policy: <\$NAME>]</p>

指示文	<p>原因: J2EE コネクタ接続プールの使用率 (プール内で使用されている接続の数) が、しきい値を超えました。要求された接続の数が、許容最大数に近づいているか、最大数に達しました。</p> <p>影響: ManagedConnection は絶えず作成されるため、各 ManagedConnection が消費するメモリやディスク容量などのシステムリソースの量が増加し、システム全体のパフォーマンスに影響を与えることがあります。接続要求の間に新しい ManagedConnection の作成が必要になると、WebLogic Server は ManagedConnection の数が許容最大数に達していないことを確認します。最大数に達すると、WebLogic Server は接続プールから ManagedConnection を再利用しようとします。ただし、再利用できる接続がない場合は、再利用の試みが失敗したことと、接続要求は許容最大数までの接続の場合にのみ許可されることを指摘する警告がログに記録されます。</p> <p>処置: WebLogic Server では、割り当てられる接続の許容最大数の設定を変更できます。</p> <p>J2EE 接続の管理については、使用している WebLogic Server バージョンの『<i>Programming WebLogic J2EE Connectors(WebLogic J2EE コネクタ プログラマーズ ガイド)</i>』の接続管理のセクションを参照してください。このドキュメントは、http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/index.html から入手できます。</p> <p>免責事項: 上記の URL をクリックすると、HP 以外のサイトに移動します。HP は、非 HP サイトのコンテンツを管理していません。</p>
レポート タイプ	自動アクション: ASCII レポート
領域	コネクタ

メトリック B071_TransRollbackPct

モニター ポリシー名	WLSSPI_0071
メトリック名	B071_TransRollbackPct
メトリック タイプ	警告通知、レポート作成、グラフ作成
説明	合計を基準とした場合のトランザクション ロールバックの割合
使用可能な WebLogic Server のバージョン	9.x、10.x
重要度: 条件	警戒域: WLSSPI-0071.1、しきい値 1
収集間隔	5 分
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	WLSSPI-0071.1: % of transactions rolled back (<\$VALUE>%) too high (>=<\$THRESHOLD>%) [Policy: <\$NAME>]
指示文	<p>原因: ロールバックされたトランザクションの割合が、しきい値を超えました。アプリケーション設計の問題かリソースの問題です。</p> <p>影響: ユーザー要求が正常に終了しません。</p> <p>処置: WebLogic 管理者は、必要なデータベース システムをチェックし、正常に機能することを確認してください。また、以下の構成可能なトランザクション属性をチェックしてください。</p> <p>Timeout Seconds - システムがロールバックを強制する前に、トランザクションがアクティブでいられる時間</p> <p>Abandon Timeout Seconds - トランザクション コーディネータが、トランザクションの完了を試み続ける最大時間</p> <p>Before Completion Iteration Limit - システムがロールバックを強制する前に処理される beforeCompletion コールバックの数</p> <p>管理者は、Administration Console から個々のトランザクションを監視することができます。統計情報以外に、以下の情報も表示できます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ロールバックと時間のアクティブな情報など、名前ごとのトランザクション 2 全トランザクションと、コミット、ロールバックされたトランザクションに関する統計情報など、リソースごとのトランザクション 3 ステータス、サーバー、リソース、プロパティ、トランザクション識別子に関する情報など、すべてのアクティブなトランザクション
レポート タイプ	登録アプリケーション: ASCII レポート
領域	トランザクション

メトリック B072_TransResErrRbPct

モニター ポリシー名	WLSSPI_0072
メトリック名	B072_TransResErrRbPct
メトリック タイプ	警告通知、レポート作成、グラフ作成
説明	リソース エラーのためロールバックされたトランザクションの割合
使用可能な WebLogic Server のバージョン	9.x、10.x
重要度: 条件	警戒域: WLSSPI-0072.1、しきい値 1
収集間隔	5 分
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	WLSSPI-0072.1: % of transactions rolled back due to resource error (<\$VALUE>%) too high (>=<\$THRESHOLD>%) [Policy: <\$NAME>]
指示文	<p>原因: リソース エラーによってロールバックされたトランザクションの割合が、しきい値を超えました。リソース エラーのために、トランザクションが正常に完了していません。</p> <p>影響: 正常に終了するユーザー要求が減少します。</p> <p>処置: 管理者は、Administration Console から個々のトランザクションを監視することができます。統計情報以外に、以下の情報も表示できます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ロールバックと時間のアクティブな情報など、名前ごとのトランザクション 2 全トランザクションと、コミット、ロールバックされたトランザクションに関する統計情報など、リソースごとのトランザクション 3 ステータス、サーバー、リソース、プロパティ、トランザクション識別子に関する情報など、すべてのアクティブなトランザクション
レポート タイプ	登録アプリケーション: ASCII レポート
領域	トランザクション

メトリック B073_TransAppErrRbPct

モニター ポリシー名	WLSSPI_0073
メトリック名	B073_TransAppErrRbPct
メトリック タイプ	警告通知、レポート作成、グラフ作成
説明	アプリケーション エラーのためロールバックされたトランザクションの割合
使用可能な WebLogic Server のバージョン	9.x、10.x
重要度: 条件	警戒域: WLSSPI-0073.1、しきい値 1
収集間隔	5 分
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	WLSSPI-0073.1: % of transactions rolled back due to application error (<\$VALUE>%) too high (>=<\$THRESHOLD>%) [Policy: <\$NAME>]
指示文	<p>原因: アプリケーション エラーによってロールバックされたトランザクションの割合が、しきい値を超えました。アプリケーション エラーのために、トランザクションが正常に完了していません。</p> <p>影響: 正常に終了するユーザー要求が減少します。</p> <p>処置: 管理者は、Administration Console から個々のトランザクションを監視することができます。統計情報以外に、以下の情報も表示できます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ロールバックと時間のアクティブな情報など、名前ごとのトランザクション 2 全トランザクションと、コミット、ロールバックされたトランザクションに関する統計情報など、リソースごとのトランザクション 3 ステータス、サーバー、リソース、プロパティ、トランザクション識別子に関する情報など、すべてのアクティブなトランザクション
レポート タイプ	オペレータ起動グラフ、登録アプリケーション: ASCII レポート
領域	トランザクション

メトリック B074_TrانTimErrRbPct

モニター ポリシー名	WLSSPI_0074
メトリック名	B074_TrانTimErrRbPct
メトリック タイプ	警告通知、レポート作成、グラフ作成
説明	タイムアウト エラーのためロールバックされたトランザクションの割合
使用可能な WebLogic Server のバージョン	9.x、10.x
重要度: 条件	警戒域: WLSSPI-0074.1、しきい値 1
収集間隔	5 分
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	WLSSPI-0074.1: % of transactions rolled back due to timeout error (<\$VALUE>%) too high (>=<\$THRESHOLD>%) [Policy: <\$NAME>]
指示文	<p>原因: タイムアウト エラーによってロールバックされたトランザクションの割合が、しきい値を超えました。タイムアウト エラーのために、トランザクションが正常に完了していません。</p> <p>影響: 正常に終了するユーザー要求が減少します。</p> <p>処置: 管理者は、Administration Console から個々のトランザクションを監視することができます。統計情報以外に、以下の情報も表示できます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ロールバックと時間のアクティブな情報など、名前ごとのトランザクション 2 全トランザクションと、コミット、ロールバックされたトランザクションに関する統計情報など、リソースごとのトランザクション 3 ステータス、サーバー、リソース、プロパティ、トランザクション識別子に関する情報など、すべてのアクティブなトランザクション
レポート タイプ	オペレータ起動グラフ、登録アプリケーション: ASCII レポート
領域	トランザクション

メトリック B075_TransSysErrRbPct

モニター ポリシー名	WLSSPI_0075
メトリック名	B075_TransSysErrRbPct
メトリック タイプ	警告通知、レポート作成、グラフ作成
説明	システム エラーのためロールバックされたトランザクションの割合
使用可能な WebLogic Server のバージョン	9.x、10.x
重要度: 条件	警戒域: WLSSPI-0075.1、しきい値 1
収集間隔	5 分
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	WLSSPI-0075.1: % of transactions rolled back due to system error (<\$VALUE>%) too high (>=<\$THRESHOLD>%) [Policy: <\$NAME>]
指示文	<p>原因: システム エラーによってロールバックされたトランザクションの割合が、しきい値を超えました。システム エラーのために、トランザクションが正常に完了していません。</p> <p>影響: 正常に終了するユーザー要求が減少します。</p> <p>処置: 管理者は、Administration Console から個々のトランザクションを監視することができます。統計情報以外に、以下の情報も表示できます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ロールバックと時間のアクティブな情報など、名前ごとのトランザクション 2 全トランザクションと、コミット、ロールバックされたトランザクションに関する統計情報など、リソースごとのトランザクション 3 ステータス、サーバー、リソース、プロパティ、トランザクション識別子に関する情報など、すべてのアクティブなトランザクション
レポート タイプ	オペレータ起動グラフ、登録アプリケーション: ASCII レポート
領域	トランザクション

メトリック B076_TrانThruRate

モニター ポリシー名	なし: レポートおよびグラフの作成に使用
メトリック名	B076_TrانThruRate
メトリック タイプ	グラフ作成、レポート作成
説明	1 秒あたりに処理されるトランザクションの数
使用可能な WebLogic Server のバージョン	9.x、10.x
重要度: 条件	なし
収集間隔	5 分
メッセージ グループ	なし
メッセージ テキスト	なし
指示文	なし
レポート タイプ	なし
領域	トランザクション

メトリック B077_TrانHeurCnt

モニター ポリシー名	WLSSPI_0077
メトリック名	B077_TrانHeurCnt
メトリック タイプ	警告通知、レポート作成、グラフ作成
説明	試行錯誤的な決定を返すトランザクションの割合
使用可能な WebLogic Server のバージョン	9.x、10.x
重要度: 条件	警戒域: WLSSPI-0075.1、しきい値 1
収集間隔	5 分
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	WLSSPI-0077.1: % of transactions returning a heuristic decision (<\$VALUE>%) too high (>=<\$THRESHOLD>%) [Policy: <\$NAME>]
指示文	<p>原因: ヒューリスティックな決定を返すトランザクションの割合が、しきい値を超えました。分散トランザクションの完了段階で更新をコミットまたはロールバックする間に、リソースが一方的決定を行うときに、ヒューリスティックな終了(またはヒューリスティックな決定)が発生しています。ヒューリスティックな完了の原因としては、ネットワーク障害やトランザクションのタイムアウトなどが考えられます。</p> <p>影響: ヒューリスティックな決定が発生すると、分散データが未確定の状態に残されることがあります。</p> <p>処置: ヒューリスティックな決定が発生すると、以下のヒューリスティックな結果例外のいずれかがスローされることがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • HeuristicRollback - トランザクションに関与するリソースの 1 つが、自身を準備してコミットの決定を待つことに同意しましたが、その作業を自主的にロールバックすることを決定しました。トランザクション マネージャがトランザクションをコミットすることを決定した場合、トランザクションの他のブランチはコミットされるため、リソースのヒューリスティックなロールバックの決定は妥当ではなく、一貫しない結果になる可能性があります。 • HeuristicCommit - トランザクションに関与するリソースの 1 つが、自身を準備してコミットの決定を待つことに同意しましたが、その作業を自主的にコミットすることを決定しました。トランザクション マネージャがトランザクションをロールバックすることを決定した場合、トランザクションの他のブランチはロールバックされるため、リソースのヒューリスティックなコミットの決定は妥当ではなく、一貫しない結果になる可能性があります。 • HeuristicMixed - トランザクション マネージャは、関与するリソースの一部がコミットし、他のリソースがロールバックしたため、トランザクションが混合した状態になったことを認識しています。通常は、関与するリソースが行ったヒューリスティックなロールバックまたはコミットの決定が原因です。

指示文 (続き)	<ul style="list-style-type: none"> • HeuristicHazard - トランザクション マネージャは、関与するリソースの一部がコミットし、他のリソースがロールバックしたため、トランザクションが混合した状態になった可能性を認識しています。ただし、システムまたはリソースの障害があると、HeuristicMixed の確実な判定ができません。通常は、関与するリソースが行ったヒューリスティックなロールバックまたはコミットの決定が原因です。 • ヒューリスティックな完了が発生すると、サーバー ログにメッセージが記録されます。ヒューリスティックな完了を解決する方法については、ご使用のデータベース製品のドキュメントを参照してください。 <p>一部のリソース マネージャは、ヒューリスティックな完了のコンテキスト情報を保存します。この情報は、リソース マネージャのデータの非一貫性を解決するときに役に立ちます。WebLogic Console の [JTA] パネルで、ForgetHeuristics 属性 ([ヒューリスティックを無視]) を True に設定している場合、この情報はヒューリスティックな完了の後に削除されます。コンテキスト情報を保存するリソース マネージャを使用するときは、ForgetHeuristics 属性を False に設定してください。</p>
レポート タイプ	オペレータ起動グラフ、登録アプリケーション: ASCII レポート
領域	トランザクション

メトリック B078_ConnectorConnectionPoolLeakedConnRateSum

モニター ポリシー名	なし: グラフの作成に使用
メトリック名	B078_ConnectorConnectionPoolLeakedConnRateSum
メトリック タイプ	グラフ作成
説明	接続プール内で閉じていないコネクタ接続と、最大待ち時間を越えたコネクタ接続の 1 秒あたりの数
使用可能な WebLogic Server のバージョン	9.x、10.x
重要度: 条件	なし
収集間隔	5 分
メッセージ グループ	なし
メッセージ テキスト	なし
指示文	なし
レポート タイプ	なし
領域	コネクタ

メトリック B278_ConnectorConnectionPoolLeakedConnRate

モニター ポリシー名	WLSSPI_0278
メトリック名	B278_ConnectorConnectionPoolLeakedConnRate
メトリック タイプ	警告通知、レポート作成 (ログの記録のみ。レポートは作成されない)
説明	JCA 接続プールのリークした接続の割合
使用可能な WebLogic Server のバージョン	9.x、10.x
重要度: 条件	注意域: WLSSPI-0278.1、しきい値 100
収集間隔	5 分
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	WLSSPI-0278.1: Rate of leaked connections for the JCA connection pool (<\$VALUE>) too high (>=<\$THRESHOLD>) [Policy: <\$NAME>]

指示文	<p>原因: 新たにリークした接続の割合が、しきい値を超えました。アプリケーション コンポーネントが接続の使用後に閉じなかったことによる接続リーク。</p> <p>影響: 接続が閉じられると、その接続は今後の接続要求に使用できません。アプリケーションが接続を閉じるのに失敗すると、接続プールの使用可能な接続を使い果たしてしまい、その後の接続要求が失敗することがあります。</p> <p>処置: 不具合のあるアプリケーション コンポーネントを修正します。現在の接続の情報と、構成された最大値を超える期間にわたってアイドル状態にあった接続については、注釈レポートを参照してください。接続リークについては、使用している WebLogic Server バージョンの『WebLogic J2EE コネクタ アーキテクチャ』を参照してください。このドキュメントは、http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/index.html から入手できます。</p> <p>免責事項: 上記の URL をクリックすると、HP 以外のサイトに移動します。HP は、非 HP サイトのコンテンツを管理していません。</p>
レポート タイプ	自動アクション: ASCII レポート
領域	コネクタ

メトリック B079_TranCapacityUtil

モニター ポリシー名	WLSSPI_0079
メトリック名	B079_TranCapacityUtil
メトリック タイプ	警告通知、グラフ作成、レポート作成
説明	トランザクション容量の使用率
使用可能な WebLogic Server のバージョン	9.x、10.x
重要度: 条件	危険域: WLSSPI-0079.1、しきい値 98 重要警戒域: WLSSPI-0079.2、しきい値 95
収集間隔	5 分
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	WLSSPI-0079.x: % utilization of transaction capacity (<\$VALUE>%) too high (>=<\$THRESHOLD>%) [Policy: <\$NAME>]
指示文	<p>原因: 同時に進行中のトランザクションの数 (サーバーで許容されているトランザクションの最大数に対する割合として) が、しきい値を超えました。</p> <p>影響: トランザクションのロールバックの割合に急激な上昇が見られる可能性があります。</p> <p>処置:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 同時実行トランザクションを制限してください。 2 同時実行トランザクションの ACID プロパティを確認してください。
レポート タイプ	自動アクション: ASCII レポート
領域	トランザクション

メトリック B080_ClsOutMesFailRt

モニター ポリシー名	WLSSPI_0080
メトリック名	B080_ClsOutMesFailRt
メトリック タイプ	警告通知、グラフ作成
説明	1 分あたりにクラスタに再送されたマルチキャスト メッセージの数
使用可能な WebLogic Server のバージョン	9.x、10.x
重要度: 条件	警戒域: WLSSPI-0080.1、しきい値 1
収集間隔	5 分
メッセージ グループ	WebLogic

メッセージ テキスト	WLSSPI-0080.1: # of multicast messages to cluster that were resent (<\$VALUE>/min) too high (>=<\$THRESHOLD>/min) [Policy: <\$NAME>]
指示文	<p>原因: 再送されたクラスタへのマルチキャスト メッセージの数が、しきい値を超えました。クラスタの構成かネットワークのトポロジが原因で発生した可能性があります。</p> <p>影響: マルチキャスト パケットの損失。</p> <p>処置: マルチキャストは、障害を検出したりクラスタ全体の JNDI ツリーを維持したりする重要な機能を制御するため、クラスタの構成や基本的なネットワーク トポロジがマルチキャスト通信と干渉しないことが重要です。WebLogic Server クラスタを構成または計画するときは、必ず以下の規則を考慮に入れてください。</p> <p>ほとんどの配備では、クラスタ化するサーバーを単一のサブネットに制限することで、マルチキャスト メッセージが確実に転送されるようになります。ただし、特殊なケースでは、Wide Area Network (WAN) 内の複数のサブネットに WebLogic Server クラスタを分散させたい場合があります。これは、クラスタ化された配備で冗長性を高める場合や、地理的により広い範囲にクラスタ化されたインスタンスを分散させる場合に適切です。</p> <p>WAN (または複数のサブネット) 上にクラスタを分散させる場合は、マルチキャスト メッセージがクラスタ内のすべてのサーバーに確実に転送されるように、ネットワーク トポロジを計画および構成しなければなりません。具体的には、ネットワークが以下の要件を満たしていなければなりません。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ネットワークは、IP マルチキャスト パケット伝達を完全にサポートしていなければなりません。つまり、クラスタ化されたインスタンスにマルチキャスト メッセージを伝達できるように、すべてのルーターと他のトンネリング テクノロジを構成する必要があります。 2 ほとんどのマルチキャスト メッセージが 200 ~ 300 ミリ秒で最終的な送り先に届くように、ネットワークの遅延時間は十分に短くなければなりません。 3 マルチキャスト パケットが最終的な送り先に届く前にルーターがパケットを廃棄しないように、マルチキャストの Time-To-Live (TTL) の値が十分に高くなければなりません。 <p>注意: WAN 上に WebLogic Server クラスタを分散させる場合は、上で説明したマルチキャスト要件に加えて、ネットワーク設備が必要になることもあります。たとえば、クライアント要求を最も効率的な方法でサーバーに向けさせる (不要なネットワーク ホップを避ける) ために、負荷分散機能を有するハードウェアの構成が必要になることがあります。</p>
レポート タイプ	オペレータ起動グラフ
領域	クラスタ

メトリック B081_ClsInMesFailRt

モニター ポリシー名	WLSSPI_0081
メトリック名	B081_ClsInMesFailRt
メトリック タイプ	警告通知、グラフ作成
説明	サーバーで失われた、クラスタからの 1 分あたりのマルチキャストメッセージ数
使用可能な WebLogic Server のバージョン	9.x、10.x
重要度: 条件	警戒域: WLSSPI-0081.1、しきい値 1
収集間隔	5 分
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	WLSSPI-0081.1: # of multicast messages from cluster lost by server (<\$VALUE>/min) too high (>=<\$THRESHOLD>/min) [Policy: <\$NAME>]
指示文	<p>原因: サーバーで失われた、クラスタからのマルチキャスト メッセージの数がしきい値を超えました。クラスタの構成かネットワークのトポロジが原因で発生した可能性があります。</p> <p>影響: 重要なデータの損失。</p> <p>処置: マルチキャストは、障害を検出したりクラスタ全体の JNDI ツリーを維持したりする重要な機能を制御するため、クラスタの構成や基本的なネットワーク トポロジがマルチキャスト通信と干渉しないことが重要です。WebLogic Server クラスタを構成または計画するときは、必ず以下の規則を考慮に入れてください。</p> <p>ほとんどの配備では、クラスタ化するサーバーを単一のサブネットに制限することで、マルチキャスト メッセージが確実に転送されるようになります。ただし、特殊なケースでは、Wide Area Network (WAN) 内の複数のサブネットに WebLogic Server クラスタを分散させたい場合があります。これは、クラスタ化された配備で冗長性を高める場合や、地理的により広い範囲にクラスタ化されたインスタンスを分散させる場合に適切です。</p>

指示文 (続き)	<p>WAN (または複数のサブネット) 上にクラスタを分散させる場合は、マルチキャスト メッセージがクラスタ内のすべてのサーバーに確実に転送されるように、ネットワーク トポロジを計画および構成しなければなりません。具体的には、ネットワークが以下の要件を満たしていなければなりません。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ネットワークは、IP マルチキャスト パケット伝達を完全にサポートしていなければなりません。つまり、クラスタ化されたインスタンスにマルチキャスト メッセージを伝達できるように、すべてのルーターと他のトンネリング テクノロジを構成する必要があります。 2 ほとんどのマルチキャスト メッセージが 200 ~ 300 ミリ秒で最終的な送り先に届くように、ネットワークの遅延時間は十分に短くなければなりません。 3 マルチキャスト パケットが最終的な送り先に届く前にルーターがパケットを廃棄しないように、マルチキャストの Time-To-Live (TTL) の値が十分に高くなければなりません。 <p>注意: WAN 上に WebLogic Server クラスタを分散させる場合は、上で説明したマルチキャスト要件に加えて、ネットワーク設備が必要になることもあります。たとえば、クライアント要求を最も効率的な方法でサーバーに向けさせる (不要なネットワーク ホップを避ける) ために、負荷分散機能を有するハードウェアの構成が必要になることがあります。</p>
レポート タイプ	オペレータ起動グラフ
領域	クラスタ

メトリック B082_ClusterHealth

モニター ポリシー名	WLSSPI_0082
メトリック名	B082_ClusterHealth
メトリック タイプ	警告通知、グラフ作成
説明	クラスタの動作状況
使用可能な WebLogic Server のバージョン	9.x、10.x
重要度: 条件	危険域: WLSSPI-0082.1、しきい値 4.5
収集間隔	5 分
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	WLSSPI-0082.1: クラスタの動作状況に問題があります。
指示文	<p>原因:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 負荷分散が適切に行われていません。 2 ネットワークの遅延時間が増加しています。 <p>影響:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 クラスタに障害が発生すると、障害復旧に影響が生じる可能性があります。 2 可用性が低下する可能性があります。 <p>処置:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 負荷分散装置の動作を確認してください。 2 固定したルーティング アルゴリズムを選択してください。
レポート タイプ	オペレータ起動グラフ
領域	クラスタ

メトリック B281_XMLCacheDiskSize

モニター ポリシー名	WLSSPI_0281
メトリック名	B281_XMLCacheDiskSize
メトリック タイプ	レポート作成 (ログの記録のみ。レポートは作成されない)
説明	XML パーサーでの外部参照が含まれるディスクにキャッシュされたエントリの総数
使用可能な WebLogic Server のバージョン	9.x、10.x
重要度: 条件	なし
収集間隔	5 分
メッセージ グループ	WebLogic

メッセージ テキスト	なし
指示文	なし
レポート タイプ	今後の使用のために予約済み
領域	XML キャッシュ

メトリック B282_XMLCacheMemorySize

モニター ポリシー名	WLSSPI_0282
メトリック名	B282_XMLCacheMemorySize
メトリック タイプ	レポート作成
説明	XML パーサーでの外部参照が含まれるメモリにキャッシュされたエントリの総数
使用可能な WebLogic Server のバージョン	9.x、10.x
重要度: 条件	なし
収集間隔	5 分
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	なし
指示文	なし
レポート タイプ	今後の使用のために予約済み
領域	XML キャッシュ

メトリック B283_DeferredRequestsCnt

モニター ポリシー名	WLSSPI_0283
メトリック名	B283_DeferredRequestsCnt
メトリック タイプ	警告通知、グラフ作成
説明	保留状態の要求の数
使用可能な WebLogic Server のバージョン	9.x、10.x
重要度: 条件	注意域: WLSSPI-0283.1、しきい値 100
収集間隔	15 分
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	WLSSPI-0283.1: Deferred requests count (<\${VALUE}>) too high (>=<\${THRESHOLD}>) [Policy: <\${NAME}>]

指示文	<p>原因: このメトリックは、max-threads-constraint 制約に基づいて実行のためのスレッドを拒否された要求の数を監視します。</p> <p>max-threads-constraint は、使用できるワーク マネージャ コンポーネントの 1 つで、アプリケーションのデプロイメント 記述子でコンポーネントの名前を参照することにより、アプリケーションのパフォーマンスを制御します。max-threads-constraint 制約は、制約対象の作業セットからの要求を実行する同時スレッドの数を制限します。デフォルトは制限なしです。制約の値に達すると、サーバーは、同時実行の数が制限値を下回るまで、このタイプの要求をスケジューリングしません。</p> <p>影響:</p> <ul style="list-style-type: none"> • アプリケーションの応答時間がさらに遅延する可能性があります。 • アプリケーションが一時停止状態になる可能性があります。 • アプリケーションのデッドロック状態が発生する可能性があります。 <p>処置: 可能であれば、アプリケーションの max-threads-constraint 制約を高くします。</p>
レポート タイプ	なし
領域	XML キャッシュ

メトリック B284_ReqWaitTimeForThread

モニター ポリシー名	WLSSPI_0284
メトリック名	B284_ReqWaitTimeForThread
メトリック タイプ	警告通知、グラフ作成
説明	スレッド 要求待ち時間
使用可能な WebLogic Server のバージョン	9.x、10.x
重要度: 条件	注意域: WLSSPI-0284.1、しきい値 1000
収集間隔	15 分
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	WLSSPI-0284.1: Request wait time for a thread (<\$VALUE> ms) too high (>=<\$THRESHOLD> ms) [Policy: <\$NAME>]
指示文	<p>原因: このメトリックは、要求によるスレッドの待ち時間 (ミリ秒単位) を監視するために使用します。min_threads_constraint を満たす必要のある要求のみが対象となります。min-threads-constraint は、使用できるワーク マネージャ コンポーネントの 1 つで、アプリケーションのデプロイメント記述子でコンポーネントの名前を参照することにより、アプリケーションのパフォーマンスを制御します。この制約は、デッドロックを回避するために、サーバーから制約対象の要求に割り当てるスレッド数を保証します。デフォルトはゼロです。このタイプの制約は、主に、サーバー インスタンスがデッドロック状態に近い場合に効果があります。その場合、サービス クラスの要求がフェア シェアを上回ったばかりの場合でも、WebLogic Server により要求のスケジューリング設定が行われます。</p> <p>影響:</p> <ul style="list-style-type: none"> • アプリケーションの応答が遅くなる可能性があります。 • アプリケーションによって使用可能なスレッドがブロックされる可能性があります。 • アプリケーションのデッドロック状態が発生する可能性があります。 <p>処置: スレッド プールのサイズを大きくするか、拡大可能とマークします。</p>
レポート タイプ	なし
領域	XML キャッシュ

メトリック B085_InvLoginAttCnt

モニター ポリシー名	WLSSPI_0085
メトリック名	B085_InvLoginAttCnt
メトリック タイプ	警告通知、グラフ作成
説明	無効なログイン試行の数
使用可能な WebLogic Server のバージョン	9.x、10.x
重要度: 条件	警戒域: WLSSPI-0085.1、しきい値 2
収集間隔	5 分
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	WLSSPI-0085.1: # of invalid login attempts (<\$VALUE>) too high (>=<\$THRESHOLD>) [Policy: <\$NAME>]
指示文	<p>原因: 無効なログイン試行の回数が、しきい値を超えました。これは、試行されたセキュリティ侵害であるかもしれません。</p> <p>影響: セキュリティが侵害されると、WebLogic Server 環境のセキュリティが危険にさらされます。</p> <p>処置: 無効なログイン試行が頻繁に繰り返される場合は、weblogic.security.audit パッケージを実装してください。このパッケージを使用すると、監査記録を調べて、セキュリティ侵害があったかどうかや、セキュリティ侵害が試みられたかどうかを判定することができます。</p>
レポート タイプ	オペレータ起動グラフ
領域	セキュリティ

メトリック B285_PendingReqCount

モニター ポリシー名	WLSSPI_0285
メトリック名	B285_PendingReqCount
メトリック タイプ	警告通知、グラフ作成
説明	保留状態の要求の数
使用可能な WebLogic Server のバージョン	9.x、10.x
重要度: 条件	注意域: WLSSPI-0285.1、しきい値 100
収集間隔	15 分
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	WLSSPI-0285.1: Number of pending requests (<\$VALUE>) too high (>=<\$THRESHOLD>) [Policy: <\$NAME>]
指示文	<p>原因: このメトリックは、使用可能なスレッドを待機して保留状態にある要求の数を監視します。</p> <p>影響:</p> <ul style="list-style-type: none"> • アプリケーションの応答が遅くなる可能性があります。 • アプリケーションによって使用可能なスレッドがブロックされる可能性があります。 • アプリケーションのデッドロック状態が発生する可能性があります。 <p>処置: スレッド プールのサイズを大きくするか、拡大可能とマークします。</p>
レポート タイプ	なし
領域	XML キャッシュ

メトリック B286_PendingReqPct

モニター ポリシー名	WLSSPI_0286
メトリック名	B286_PendingReqPct
メトリック タイプ	警告通知、グラフ作成
説明	保留状態の要求の割合
使用可能な WebLogic Server のバージョン	9.x、10.x
重要度: 条件	重要警戒域: WLSSPI-0286.1、しきい値 98
収集間隔	15 分
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	WLSSPI-0286.1: Percentage of pending requests (<\$VALUE>%) too high (>=<\$THRESHOLD>%) [Policy: <\$NAME>]
指示文	<p>原因: このメトリックは、使用可能なスレッドを待機して保留状態にある要求の割合を監視します。</p> <p>影響:</p> <ul style="list-style-type: none"> • アプリケーションの応答が遅くなる可能性があります。 • アプリケーションによって使用可能なスレッドがブロックされる可能性があります。 • アプリケーションのデッドロック状態が発生する可能性があります。 <p>処置: スレッド プールのサイズを大きくするか、拡大可能とマークします。</p>
レポート タイプ	なし
領域	XML キャッシュ

メトリック B287_ReqMaxWaitTime

モニター ポリシー名	WLSSPI_0287
メトリック名	B287_ReqMaxWaitTime
メトリック タイプ	警告通知、グラフ作成
説明	スレッド要求最長待ち時間
使用可能な WebLogic Server のバージョン	9.x、10.x
重要度: 条件	注意域: WLSSPI-0287.1、しきい値 1000
収集間隔	15 分
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	WLSSPI-0287.1: Maximum time a request had to wait for a thread (<\$VALUE> ms) too high (>=<\$THRESHOLD> ms) [Policy: <\$NAME>]
指示文	<p>原因: このメトリックは、要求によるスレッドの最長待ち時間を監視するために使用します。</p> <p>影響:</p> <ul style="list-style-type: none"> アプリケーションの応答が遅くなる可能性があります。 アプリケーションによって使用可能なスレッドがブロックされる可能性があります。 アプリケーションのデッドロック状態が発生する可能性があります。 <p>処置: スレッド プールのサイズを大きくするか、拡大可能とマークします。</p>
レポート タイプ	なし
領域	XML キャッシュ

メトリック B288_StandbyThreadCount

モニター ポリシー名	WLSSPI_0288
メトリック名	B288_StandbyThreadCount
メトリック タイプ	警告通知、グラフ作成
説明	スタンバイ プールのスレッド数
使用可能な WebLogic Server のバージョン	9.x、10.x
重要度: 条件	注意域: WLSSPI-0288.1、しきい値 10
収集間隔	15 分
HPOM のしきい値	最小
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	WLSSPI-0288.1: Number of threads in the standby pool (<\$VALUE>) too low (\<=<\$THRESHOLD>) [Policy: <\$NAME>]
指示文	<p>原因: このメトリックは、スタンバイプールのスレッド数を監視するために使用します。現在の作業負荷の処理に必要な余分なスレッドはスタンバイスレッドとみなされ、スタンバイプールに追加されます。必要なスレッド数が増えると、これらのスレッドはアクティブになります。このスレッド数の値は、パフォーマンス基準を満たす許容可能な範囲内であることが必要です。</p> <p>影響:</p> <ul style="list-style-type: none"> スレッドプールの飽和状態が発生する可能性があります。 CPU 使用率が常に急上昇する可能性があります。 <p>処置:</p> <ol style="list-style-type: none"> スレッドプールの飽和を解決するには、CPU 使用率が 75 ~ 85 パーセントになるまで、スレッドプールサイズを段階的に変更します。 コードプロファイリングツールを使用して、アプリケーションをチューニングします。
レポート タイプ	なし
領域	XML キャッシュ

メトリック B289_MDBProcMsgRate

モニター ポリシー名	なし
メトリック名	B289_MDBProcMsgRate
メトリック タイプ	レポート作成
説明	処理されたメッセージ数
使用可能な WebLogic Server のバージョン	9.x
重要度: 条件	なし
収集間隔	なし
メッセージ グループ	なし
メッセージ テキスト	なし
指示文	なし
レポート タイプ	登録アプリケーション レポート (ASCII レポート)
領域	特別なレポート

メトリック B092_ExQueThroughput

モニター ポリシー名	WLSSPI_0092
メトリック名	B092_ExQueThroughput
メトリック タイプ	グラフ作成、レポート作成
説明	実行キューで 1 秒あたりに処理される要求の平均数
使用可能な WebLogic Server のバージョン	9.x、10.x
重要度: 条件	なし
収集間隔	なし
メッセージ グループ	なし
メッセージ テキスト	なし
指示文	なし
レポート タイプ	なし
領域	タイム サービス

メトリック B812_DomainInfo

モニター ポリシー名	なし: View WebLogic Servers アプリケーションによって表示されるレポートの作成に使用
メトリック名	B812_DomainInfo
メトリック タイプ	レポート作成
説明	WebLogic ドメイン構成、クラスタ情報、および物理的なコンピュータ
使用可能な WebLogic Server のバージョン	10.x
重要度: 条件	なし
収集間隔	なし
メッセージ テキスト	なし
指示文	なし
レポート タイプ	登録アプリケーション レポート (ASCII レポート)
領域	特別なレポート

メトリック B813_ApplicationInfo

モニター ポリシー名	なし: View WebLogic Servers アプリケーションによって表示されるレポートの作成に使用
メトリック名	B813_ApplicationInfo
メトリック タイプ	レポート作成
説明	WebLogic Server で実行中のアプリケーション
使用可能な WebLogic Server のバージョン	10.x
重要度: 条件	なし
収集間隔	なし
メッセージ テキスト	なし
指示文	なし
レポート タイプ	登録アプリケーション レポート (ASCII レポート)
領域	特別なレポート

メトリック B815_TranInfo

モニター ポリシー名	なし: View WebLogic Servers アプリケーションによって表示されるレポートの作成に使用
メトリック名	B815_TranInfo
メトリック タイプ	レポート作成
説明	WebLogic Server のステータス
使用可能な WebLogic Server のバージョン	10.x
重要度: 条件	なし
収集間隔	なし
メッセージ テキスト	なし
指示文	なし
レポート タイプ	登録アプリケーションレポート (ASCII レポート)
領域	特別なレポート

メトリック B819_JVMHeapFreeMem

モニター ポリシー名	WBSSPI_0819
メトリック名	B819_JVMHeapFreeMem
メトリック タイプ	グラフ作成
説明	JVM ヒープ空きメモリ (KB 単位)
使用可能な WebLogic Server のバージョン	10.x
重要度: 条件	なし
収集間隔	15 分
メッセージ テキスト	なし
指示文	なし
レポート タイプ	なし
領域	JVM

メトリック B820_SrvrRestReqrd

モニター ポリシー名	WLSSPI_0820
メトリック名	B820_SrvrRestReqrd
メトリック タイプ	警告通知、グラフ作成
説明	要サーバー再起動
使用可能な WebLogic Server のバージョン	10.x
重要度: 条件	注意域: WLSSPI-0820.1、しきい値 1
収集間隔	15 分
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	WLSSPI-0820.10: The server must be restarted in order to activate configuration changes. WLSSPI 0820.11: No new configuration changes needing the server restart.
指示文	原因: 設定変更を有効化するには、サーバーを再起動する必要があることを示します。 影響: サーバーが再起動されるまで、設定された変更は行われません。 処置: サーバーを再起動してください。
レポート タイプ	なし
領域	Server

メトリック B821_Suspended

モニター ポリシー名	WLSSPI_0821
メトリック名	B821_Suspended
メトリック タイプ	警告通知、グラフ作成
説明	RequestManager 一時停止
使用可能な WebLogic Server のバージョン	10.x
重要度: 条件	注意域: WLSSPI-0821.1、しきい値 1
収集間隔	15 分
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	WLSSPI-0821.10: Thread pool RequestManager is suspended. WLSSPI 0821.11: Thread Pool RequestManager is running.
指示文	<p>原因: RequestManager が一時停止されていることを示します。</p> <p>影響: 一時停止されている Manager は、RequestManager が再開されるまで動作の待機解除とスレッドのディスパッチを行いません。</p> <p>処置: 実行スレッド プールの調整については、使用している WebLogic Server バージョンの『パフォーマンス チューニング』を参照してください。このドキュメントは、 http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/index.html から入手できます。</p>
レポート タイプ	なし
領域	ThreadPool

メトリック B822_DstroydTIcnt

モニター ポリシー名	WLSSPI_0822
メトリック名	B822_DstroydTIcnt
メトリック タイプ	警告通知、グラフ作成
説明	プールからの bean インスタンスがプールからスローされたアプリケーション以外の例外によって無効化された合計回数
使用可能な WebLogic Server のバージョン	10.x
重要度: 条件	注意域: WLSSPI-0822.1、しきい値 10
収集間隔	15 分
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	<p>WLSSPI-0822.10: # of times a bean instance from this pool was destroyed due to a non-application Exception being thrown from it (<\$VALUE>) too high (>= <\$THRESHOLD>)</p> <p>WLSSPI 0822.11: # of times a bean instance from this pool was destroyed due to a non-application Exception being thrown from it (<\$VALUE>) is within the threshold(<\$THRESHOLD>).</p>
指示文	<p>原因: このプールからの bean インスタンスがプールからスローされたアプリケーション以外の例外によって無効化された合計回数が示されています。</p> <p>影響: この EJB に関連するビジネス ロジックが正常に完了していません。この動作はアプリケーションの応答時間に影響します。</p> <p>処置: スローされた例外を確認し、使用している WebLogic Server バージョンのマニュアルを参照してください。このドキュメントは、http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/index.html から入手できます。</p> <p>免責事項: 上記の URL をクリックすると、HP 以外のサイトに移動します。HP は、非 HP サイトのコンテンツを管理していません。</p>
レポート タイプ	なし
領域	EJBPool

メトリック B823_EJBMssdCntRtSum

モニター ポリシー名	WLSSPI_0823
メトリック名	B823_EJBMssdCntRtSum
メトリック タイプ	警告通知、グラフ作成、レポート作成
説明	フリー プールからインスタンスを取得するために行った試行が失敗した回数
使用可能な WebLogic Server のバージョン	10.x
重要度: 条件	注意域: WLSSPI-0823.1、しきい値 10
収集間隔	15 分
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	<p>WLSSPI-0823.10: # of times a failed attempt was made to get an instance from the free pool (<\$VALUE>) too high (>= <\$THRESHOLD>)</p> <p>WLSSPI 0823.11: # of times a failed attempt was made to get an instance from the free pool (<\$VALUE>)is within the threshold (<\$THRESHOLD>)</p>
指示文	<p>原因: フリー プールからインスタンスを取得するために行った試行が失敗した合計回数</p> <p>影響: プールに使用可能なインスタンスがない場合、プールから bean を取得する試行は失敗します。これにより、ビジネス ロジックの実行に遅延が発生し、アプリケーションの応答時間が遅くなります。</p> <p>処置: max-beans-in-free-pool 要素の設定が低すぎないことを確認します。また、bean のインスタンスが使用できない場合、WebLogic Server は新しいインスタンスを割り当てようとしませんが、実際には実行可能なスレッドの数によって制限されます。ほとんどの場合、各スレッドには最大で 1 つの bean インスタンスが必要です。</p> <p>EJB パラメータの調整については、使用している WebLogic Server バージョンの『パフォーマンス チューニング』を参照してください。このドキュメントは、http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/index.html から入手できます。</p> <p>免責事項: 上記の URL をクリックすると、HP 以外のサイトに移動します。HP は、非 HP サイトのコンテンツを管理していません。</p>
レポート タイプ	自動アクション、オペレータ起動
領域	EJBPool

メトリック B824_EJBMssdCntRt

モニター ポリシー名	WLSSPI_0824
メトリック名	B824_EJBMssdCntRt
メトリック タイプ	警告通知
説明	フリープールからインスタンスを取得するために行った試行が失敗した 1分あたりの回数
使用可能な WebLogic Server のバージョン	10.x
重要度: 条件	注意域: WLSSPI-0824.1、しきい値 10
収集間隔	15 分
メッセージ グループ	WebLogic
メッセージ テキスト	WLSSPI-0824.10: # of times a failed attempt was made to get an instance from the free pool (<\$VALUE>) too high (>= <\$THRESHOLD>) WLSSPI 0824.11: # of times a failed attempt was made to get an instance from the free pool (<\$VALUE>)is within the threshold (<\$THRESHOLD>)
指示文	<p>原因: フリー プールからインスタンスを取得するために行った試行が失敗した合計回数</p> <p>影響: プールに使用可能なインスタンスがない場合、プールから bean を取得する試行は失敗します。これにより、ビジネス ロジックの実行に遅延が発生し、アプリケーションの応答時間が遅くなります。</p> <p>処置: max-beans-in-free-pool 要素の設定が低すぎないことを確認します。また、bean のインスタンスが使用できない場合、WebLogic Server は新しいインスタンスを割り当てようとしていますが、実際には実行可能なスレッドの数によって制限されます。ほとんどの場合、各スレッドには最大で 1 つの bean インスタンスが必要です。</p> <p>EJB パラメータの調整については、使用している WebLogic Server バージョンの『パフォーマンス チューニング』を参照してください。このドキュメントは、http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/index.html から入手できます。</p> <p>免責事項: 上記の URL をクリックすると、HP 以外のサイトに移動します。HP は、非 HP サイトのコンテンツを管理していません。</p>
レポート タイプ	なし
領域	EJBPool

WebLogic SPI ログファイルのポリシー

ここでは、WebLogic Server および WebLogic SPI のログ ファイルを監視する Smart Plug-in for BEA WebLogic Server (WebLogic SPI) ポリシーについて説明します。このポリシーは、WebLogic SPI 内部へのエラー メッセージと WebLogic Server XML 設定ファイルへの変更を検出します。

WLSSPI エラー ログ

このログファイル ポリシーは、以下にある WLSSPI ログ ファイルを監視します。
%OvAgentdir%\wasspi\wls\log\wasspi_perl.log

説明	WebLogic SPI のエラー ログを監視し、メッセージブラウザに送信される重大なエラーを検出します。
Severity	危険域
メッセージ グループ	WLSSPI
指示文	WASSPI-1 から WASSPI-232 として検出された各エラーに使用可能です。すべてのエラー メッセージに対する詳細な指示文については、『 <i>HP Operations Smart Plug-in for BEA WebLogicServer 設定ガイド</i> 』の第 6 章を参照してください。

WebLogic ログ テンプレート

説明	WebLogic Server のログ ファイルから重大なエラーと警告を検出します。
Severity	危険域 注意域
メッセージ グループ	WebLogic
指示文	原因: "Emergency" または "Critical" のインジケータが付くメッセージが WebLogic Server のログ ファイルで検出されました。 OR "Notice"、"Error" または "Alert" のインジケータが付く。 処置: エラーを確認し、WebLogic Server のマニュアルまたはオンライン ヘルプを使用して、正確な原因と処置を判断してください。

WLSSPI Java Discovery エラー ログ

このログファイル ポリシーは、以下にある WLSSPI 検出ログ ファイルを監視します。
%OvAgentdir%\wasspi\wls\log\discovery.log

説明	WLSSPI Java Discovery エラー ログを監視します。
Severity	正常 重要警戒域 危険域 注意域
メッセージ グループ	WLSSPI
指示文	WASSPI-1 から WASSPI-254 として検出された各エラーに使用可能です。すべてのエラー メッセージに対する詳細な指示文については、『 <i>HP Operations Smart Plug-in for BEA WebLogicServer 設定ガイド</i> 』の第 6 章を参照してください。

WLSSPI Java Collector エラー ログ

このログファイル ポリシーは、以下にある WLSSPI 検出ログ ファイルを監視します。
%OvAgentdir%\wasspi\wls\log\collector.log

説明	WLSSPI Java Collector エラー ログを監視します。
Severity	正常 重要警戒域 危険域 注意域
メッセージ グループ	WLSSPI
指示文	WASSPI-1 から WASSPI-254 として検出された各エラーに使用可能です。すべてのエラー メッセージに対する詳細な指示文については、『 <i>HP Operations Smart Plug-in for BEA WebLogicServer 設定ガイド</i> 』の第 6 章を参照してください。

第2章 WebLogic SPI のツール、レポート、およびグラフ

この章では、WebLogic SPI のツール、レポート、およびグラフについて説明します。これらのトピックの詳細は、『*HP Operations Smart Plug-in for BEA WebLogic Server for UNIX インストールおよび設定ガイド*』を参照してください。

ツール

WebLogic SPI では、WebLogic Server を使用するシステムを一元的に監視して管理できるツールが提供されます。WebLogic SPI ツールでは、特定の管理ノード上のサーバー インスタンスを選択し、そのインスタンスと管理サーバーの接続を設定できます。WebLogic SPI ツールには、設定、トラブルシューティング、レポート生成ユーティリティがあります。[登録アプリケーション] ウィンドウでは、WebLogic SPI ツールは以下のツールグループに分類されます。

- WebLogic Admin
- メトリック レポート
- SAP Admin
- JMX Metric Builder: このツールグループは、SPIJMB ソフトウェア バンドルをインストールしている場合にのみ利用できます。

レポート

レポートでは、統合的な履歴データが、管理用のプレゼンテーション形式で Web ページとして生成されます。このレポートを参考にして、一定期間の WebLogic Server のパフォーマンスを分析できます。このセクションでは、WebLogic SPI と HP Reporter または HP Performance Insight との統合について作成されるレポートについて記述します。

WebLogic SPI 用の HP Reporter のレポート

HP Reporter と WebLogic SPI との統合によって利用可能になるレポートには、WebLogic Server システム上でのサーバーのパフォーマンスと可用性に関する統合されたデータが表示されます。また、その他のレポートには、単一システムのデータが表示されます。これらのレポートは、WebLogic SPI レポート パッケージを Reporter の Windows システムにインストールした翌日から利用可能となります。

以下の表に、すべての定義済みレポートを示します。

表 4 パフォーマンス

レポートのタイトル	説明	WebLogic のバージョン	Metric
上位 20 のキューのスループット	すべてのサーバーについての上位 20 の実行キューの平均スループットを示します。	9.x、10.x	10
上位 20 のサーブレット平均実行時間	すべてのサーバーについての上位 20 の要求されたサーブレットの平均実行時間を示します。サーブレット名とともに、関連するアプリケーション名も表示されます。	9.x、10.x	240
上位 20 のサーブレットの要求率	上位 20 のサーバーが受信するサーブレットの要求率の合計を示します。サーブレット名とともに、関連するアプリケーション名も表示されます。	9.x、10.x	242
実行キューのスレッドの使用率	すべてのサーバーの上位 20 の実行キューについて、実行キューのスレッドの利用率をパーセントで表示します。	9.x、10.x	11
上位 20 の平均トランザクション スループット	上位 20 のサーバーについて、平均トランザクション スループットを示します。	9.x、10.x	76
上位 20 の EJB のフリープール待機率	上位 20 のサーバーについて、利用可能になるまで要求が EJB を待機した 1 分あたりの回数を示します。	9.x、10.x	25
上位 20 の EJB のタイムアウト率	上位 20 のサーバーについて、EJB が利用可能になるまで待機している間に要求がタイムアウトになった 1 分あたりの回数を示します。	9.x、10.x	26
上位 20 の EJB のトランザクション スループット	上位 20 のサーバーについて、EJB の平均トランザクション スループットを示します。	9.x、10.x	35

表 5 可用性

レポートのタイトル	説明	WebLogic のバージョン	Metric
Server Availability (サーバーの可用性)	すべてのサーバーについて、アップタイムとダウンタイムの割合を示す、日ごとのヒストグラムを記載しています。	9.x、10.x	2

表 6 単一システム レポート

レポートのタイトル	説明	WebLogic のバージョン	Metric
Server Availability Details (サーバーの可用性の詳細)	各 WebLogic Server について、日ごとおよび 1 時間ごとのアップタイム (分) を示すスペクトルグラフを記載しています。	9.x、10.x	2
JDBC のスループットおよび接続の使用率	各 WebLogic Server について、JDBC 接続プールの使用率に対するスループットをチャートで示します。JDBC データ ソースと関連するアプリケーション名 (存在する場合) を表示します。	9.x、10.x	260, 262
JMS サーバー上のバイト数単位のスループットおよび使用率	各 WebLogic Server について、キューの使用率に対するスループット (JMS サーバー上の宛先についてのバイト数単位) をチャートで示します。	9.x、10.x	252, 256
JMS サーバー上のメッセージ件数単位のスループットおよび使用率	各 WebLogic Server について、キューの使用率に対するスループット (JMS サーバー上のメッセージ件数単位) をチャートで示します。	9.x、10.x	251, 255
サーバーについてのキューの使用率とスループット	各 WebLogic Server について、スレッドの使用率に対するスループットを示します。	9.x、10.x	10,11
サーバーについての上位 20 のサブレット要求率	日ごとの上位 20 のサブレットについての要求率 (秒単位の要求) のスタック エリア チャートおよび各 WebLogic Server についての上位 100 のサブレットについてのデータの表を示します。	9.x、10.x	242
サーバーについてのトランザクション スループット	各 WebLogic Server について、日ごとの平均トランザクション スループットを示します。	9.x、10.x	76
トランザクション ロールバック タイプ	各 WebLogic Server について、エラー タイプごとのトランザクション ロールバックを示します。	9.x、10.x	72-75
上位 20 のステートフル EJB とエンティティ EJB のキャッシュ使用率	各 WebLogic Server について、上位 20 の EJB についての EJB キャッシュ使用率をパーセントで示します。EJB インスタンスとともに、関連するアプリケーション名も表示されます。	9.x、10.x	238

WebLogic SPI 用の HP Performance Insight レポート

HP Performance Insight と WebLogic SPI との統合によって利用可能になるレポートには、WebLogic Server システム上でのサーバーのパフォーマンスと可用性に関する統合されたデータが表示されます。WebLogic SPI レポートの詳細と、HP Performance Insight への WebLogic SPI の統合方法については、『*Application Server Report Pack User Guide*』を参照してください。

以下の表に、すべての定義済みレポートを示します。

レポートのタイトル	説明	Metric
サーバーの可用性: スループット	サーバー可用性チャートは、アプリケーションサーバーの可用性のステータスを時間、日、月単位で表します。トランザクションスループットチャートは、アプリケーションサーバーで毎秒処理されるトランザクション数を表します。	2, 76
EJB プール使用率	EJB プールの使用率	235
JDBC のスループット: 使用率	接続プールの JDBC 接続のうち、使用可能な接続の割合と、接続プールの接続を使用する 1 秒あたりのクライアント数	260, 262
準リアルタイムサーバー 可用性	過去 6 時間のサーバーのステータス	2, 76
サーブレットの要求率: 応答時間	サーブレットの要求率は、1 秒あたりのサーブレットの要求数を示します。サーブレットの応答時間チャートは、各サーブレットの平均実行時間を示します。	240, 242
EJB キャッシュ使用率	キャッシュ内の EJB の使用率	238
EJB トランザクション レポート	EJB フリープール待機率は、フリープールからステートレスな Session Bean を利用できなかった 1 分あたりの回数を示します。EJB ロードタイムアウト率は、EJB の待機中にクライアントがタイムアウトした回数を示します。EJB トランザクションスループットは、1 秒あたりの EJB トランザクションの数を示します。	25, 26, 35
実行キュー スループット: 使用率	実行キュー スループット率は、実行キューで 1 秒あたりに処理された要求の数を示します。キュー使用率のグラフには、サーバーの実行キューに対して使用されるスレッドの割合が示されます。	10, 11
JMS のスループット: 使用率	JMS スループットレポートは、JMS を通過した 1 秒あたりのメッセージ数およびバイト数を示します。JMS 使用率レポートは、JMS キューの使用率をメッセージ数およびバイト数に基づいて示します。	251, 252, 255, 256
準リアルタイム実行キュー スループット: 使用率	過去 6 時間の実行キューのスループットおよび使用率の傾向	10, 11
サーバー トランザクション ロールバック	リソース、アプリケーション、タイムアウト、システムエラーが原因でロールバックされたトランザクションの割合	72 - 75

グラフ

以下の表に、収集されたメトリック値のマップ可能なグラフを示します。**View Graphs** ツールを使用して、下の表にリストされているメトリックのグラフを表示できます。このグラフは、**Web** ブラウザで表示されません。

表 7 JVM

メトリック番号および名前	メトリックの説明
B005_JVMMemUtilPct	JVM で使用されるヒープ空間の割合
B819_JVMHeapFreeMem	JVM ヒープ空きメモリ (KB 単位)

表 8 サーバーのパフォーマンス

メトリック番号および名前	メトリックの説明
B010_ExQueThruRate	実行キューで 1 秒あたりに処理される要求の数。
B011_ExQThrdUtilPct	サーバーの実行キューに使用されているスレッドの割合。
B012_ExQueWaitCnt	提供されるまで待機しているクライアントの要求数
B013_SocketTrafficRt	1 秒あたりに開かれるソケット接続の数
B014_ActiveSocketCnt	開かれているソケット接続の数

表 9 Enterprise Java Beans (EJB)

メトリック番号および名前	メトリックの説明
B025_EJBPoolWtRtSum	フリー プールから EJB bean を利用できなかった 1 分当たりの回数
B026_EJBTimeoutRtSum	EJB Bean の待機中にクライアントがタイムアウトした 1 分当たりの回数
B035_EJBTranThruRt	1 秒当たりの EJB トランザクションの数
B036_EJBTranRbRt	1 秒当たりの、ロールバックされる EJB トランザクションの数
B822_DstroydTlCnt	プールからの bean インスタンスがプールからスローされたアプリケーション以外の例外によって無効化された合計回数
B823_EJBMssdCntRtSum	フリー プールからインスタンスを取得するために行った試行が失敗した回数

表 10 JDBC

メトリック番号および名前	メトリックの説明
B061_JDBCConPIWtCnt	接続プールからの接続を取得するために待機しているクライアントの数
B063_JDBCConLkRtSum	接続プール内で閉じられていない JDBC 接続と、最大待ち時間を超えた JDBC 接続の 1 分あたりの数

表 11 コネクタ サービス

メトリック番号および名前	メトリックの説明
B078_CnctrLeakRtSum	接続プール内で閉じていないコネクタ接続と、最大待ち時間を超えたコネクタ接続の 1 秒あたりの数

表 12 トランザクション

メトリック番号および名前	メトリックの説明
B070_TranAveTime	トランザクションの平均コミット時間
B071_TranRollbackPct	合計を基準とした場合のトランザクション ロールバックの割合
B072_TranResErrRbPct	リソース エラーのためロールバックされたトランザクションの割合
B073_TranAppErrRbPct	アプリケーション エラーのためロールバックされたトランザクションの割合
B074_TranTimErrRbPct	タイムアウト エラーのためロールバックされたトランザクションの割合
B075_TranSysErrRbPct	システム エラーのためロールバックされたトランザクションの割合
B076_TranThruRate	1 秒あたりに処理されるトランザクションの数
B077_TranHeurCnt	試行錯誤的な決定を返すトランザクションの割合
B079_TranCapUtil	トランザクション容量の使用率

表 13 クラスタ

メトリック番号および名前	メトリックの説明
B080_ClsOutMesFailRt	1 分あたりにクラスタに再送されたマルチキャスト メッセージの数
B081_ClsInMesFailRt	サーバーで失われた、クラスタからの 1 分あたりのマルチキャストメッセージ数

表 14 セキュリティ

メトリック番号および名前	メトリックの説明
B085_InvLoginAttCnt	無効なログイン試行の数

表 15 WebLogic Time Service

メトリック番号および名前	メトリックの説明
B091_TimeSerThruRt	1 秒あたりに実行されるトリガーの数

表 16 Server

メトリック番号および名前	メトリックの説明
B820_SrvrRestReqrđ	要サーバー再起動

表 17 スレッド プール

メトリック番号および名前	メトリックの説明
B821_Suspnded	RequestManager 一時停止

A WebLogic SPI ゴールデン メトリック

ゴールデン メトリックとは、WebLogic Server の基本的機能を監視する一連のメトリックです。ゴールデンメトリックは、WebLogic Server で危険域や重要警戒域のイベントが発生した場合に、メッセージの送信が求められるようなクリティカルな領域（サーバー ステータスなど）を扱います。ゴールデン メトリックを実装し、これらのメトリックによって生成されるイベントに対してアクションを実行することで、WebLogic Server を円滑に機能させることができます。

表 18 ゴールデン メトリック

メトリック タイプ	メトリック名
可用性	メトリック B001_ServerStatus
JVM	メトリック B005_JVMMemUtilPct
パフォーマンス	メトリック B011_ExQThrdUtilPct
EJB	メトリック B026_EJBTimeoutRt
	メトリック B036_EJBTranRbRt
トランザクション	メトリック B071_TransRollbackPct
	メトリック B072_TransResErrRbPct
	メトリック B073_TransAppErrRbPct
	メトリック B074_TransTimErrRbPct
	メトリック B075_TransSysErrRbPct
クラスタ	メトリック B080_ClsOutMesFailRt
	メトリック B081_ClsInMesFailRt
	メトリック B082_ClusterHealth
サーブレット	メトリック B242_ServletReqRate
Web アプリケーション	メトリック B245_WebAppSessionCnt
Java Message Service (JMS)	メトリック B251_JMSUtilByMessagePct
	メトリック B252_JMSUtilByBytePct
JDBC	メトリック B260_JDBCConnectionPoolUtil
	メトリック B264_JDBCConnectionPoolFailures
コネクタ	メトリック B270_ConnectorConnectionPoolUtil
XML キャッシュ	メトリック B287_ReqMaxWaitTime

B WebLogic Server サーバー用のデータ ストア テーブル

WebLogic SPI では、データ収集手順が円滑に行えるように、ノード上のデータ ストアに WebLogic SPI メトリック用の次のデータ テーブルが作成されます。

表 19 WebLogic SPI のデータ ストア メトリック

テーブル名	領域	メトリックの説明	列名
WLSSPI_RPT_METRICS	Server	サーバーのステータス: レポート作成	B002_ServerStatusRep
WLSSPI_METRICS	JVM	JVM で使用されるヒープ 空間の割合	B005_JVMMemUtilPct
WLSSPI_METRICS WLSSPI_RPT_METRICS	ThreadPool	実行キューで 1 秒あたり に処理される要求の数	B010_ExQueThruRate
WLSSPI_METRICS WLSSPI_RPT_METRICS	ThreadPool	サーバーの実行キューに 使用されているスレッド の割合	B011_ExQThrdUtilPct
WLSSPI_METRICS	ThreadPool	提供されるまで待機して いるクライアントの要求 数	B012_ExQueWaitCnt
WLSSPI_METRICS	Server	1 秒当たりに開かれるソ ケット接続の数	B013_SocketTrafficRt
WLSSPI_METRICS	Server	開かれているソケット接 続の数	B014_ActiveSocketCnt
WLSSPI_METRICS	Server	許容可能な再起動の発生 する割合	B015_SrvrRestartsPct
WLSSPI_METRICS WLSSPI_RPT_METRICS	EJB	フリー プールから EJB Bean を利用できなかった 1 分当たりの回数	B025_EJBPoolWtRtSum
WLSSPI_METRICS WLSSPI_RPT_METRICS	EJB	EJB Bean の待機中にクラ イアントがタイムアウト した 1 分当たりの回数	B026_EJBTimeoutRtSum
WLSSPI_METRICS WLSSPI_RPT_METRICS	EJB	1 秒当たりの EJB トラン ザクションの数	B035_EJBTranThruRt

表 19 Weblogic SPI のデータストア メトリック

テーブル名	領域	メトリックの説明	列名
WLSSPI_METRICS WLSSPI_RPT_METRICS	EJB	1 秒当たりの、ロールバックされる EJB トランザクションの数	B036_EJBTranRbRt
WBSSPI_METRICS WBSSPI_RPT_METRICS	JDBC	接続プールからの接続を取得するために待機しているクライアントの数	B061_JDBCConPIWtCnt
WLSSPI_METRICS	JDBC	閉じられていない JDBC 接続と、最大待ち時間を超えた JDBC 接続の数	B063_JDBCConLkRtSum
WLSSPI_METRICS	JDBC	トランザクションの平均コミット時間	B070_TrانAveTime
WLSSPI_METRICS WLSSPI_RPT_METRICS	JDBC	ロールバックされたトランザクションの割合	B071_TrانRollbackPct
WLSSPI_METRICS WLSSPI_RPT_METRICS	JDBC	リソース エラーのためロールバックされたトランザクションの割合	B072_TrانResErrRbPct
WLSSPI_METRICS WLSSPI_RPT_METRICS	JDBC	アプリケーション エラーのためロールバックされたトランザクションの割合	B073_TrانAppErrRbPct
WLSSPI_METRICS WLSSPI_RPT_METRICS	JDBC	タイムアウト エラーのためロールバックされたトランザクションの割合	B074_TrانTimErrRbPct
WLSSPI_METRICS WLSSPI_RPT_METRICS	JDBC	システム エラーのためロールバックされたトランザクションの割合	B075_TrانSysErrRbPct
WLSSPI_METRICS WLSSPI_RPT_METRICS	JDBC	1 秒当たりに処理されるトランザクションの数	B076_TrانThruRate
WLSSPI_METRICS WLSSPI_RPT_METRICS	JDBC	ヒューリスティックな決定を返すトランザクションの割合	B077_TrانHeurCnt
WLSSPI_METRICS	JDBC	閉じていないコネクタ接続と、最大待ち時間を超えたコネクタ接続の数	B078_CnctrLeakRtSum
WLSSPI_METRICS WLSSPI_RPT_METRICS	JDBC	トランザクション容量の使用率	B079_TrانCapUtil

表 19 Weblogic SPI のデータストア メトリック

テーブル名	領域	メトリックの説明	列名
WLSSPI_METRICS	クラスタ	1分あたりにクラスタに再送されたマルチキャストメッセージの数	B080_ClsOutMesFailRt
WLSSPI_METRICS	クラスタ	サーバーで失われた、クラスタからの1分あたりのマルチキャストメッセージ数	B081_ClsInMesFailRt
WLSSPI_METRICS	Server	無効なログイン試行の回数	B085_InvLoginAttCnt
WLSSPI_METRICS WLSSPI_RPT_METRICS	ThreadPool	実行キューで1秒あたりに処理される要求の平均数	B092_ExQueThroughput
WLSSPI_RPT_METRICS	EJB	使用中のキャッシュ内のEJBの割合	B238_EJBCacheHitPct
WLSSPI_RPT_METRICS	WebModule	サーブレットの平均実行時間(ミリ秒)	B240_ServletAveExecTime
WLSSPI_RPT_METRICS	WebModule	サーブレットで費やされる時間	B241_ServletTimeCnt
WLSSPI_RPT_METRICS	WebModule	1秒あたりのサーブレットの要求数	B242_ServletReqRate
WLSSPI_RPT_METRICS	WebModule	Webアプリケーションのオープンセッションの数	B245_WebAppSessionCnt
WLSSPI_RPT_METRICS	WebModule	Webアプリケーションが実行している1秒あたりのオープンセッションの数	B246_WebAppHitRt
WLSSPI_RPT_METRICS	JMS	いっぱいになったJMSサーバーの割合(すべてのメッセージ数ベース)	B251_JMSUtilByMessagePct
WLSSPI_RPT_METRICS	JMS	いっぱいになったJMSサーバーの割合(総バイト数ベース)	B252_JMSUtilByBytePct
WLSSPI_RPT_METRICS	JMS	サーバーで設定したしきい値条件に達した時間の割合(メッセージ数ベース)	B253_JMSThreshByMessagePct
WLSSPI_RPT_METRICS	JMS	サーバーで設定したしきい値条件に達した時間の割合(総バイト数ベース)	B254_JMSThreshByBytePct

表 19 WebLogic SPI のデータストア メトリック

テーブル名	領域	メトリックの説明	列名
WLSSPI_RPT_METRICS	JMS	1 秒あたりに JMS サーバーを通じて渡されたメッセージの数	B255_JMSServerThruMessageRt
WLSSPI_RPT_METRICS	JMS	1 秒あたりに JMS サーバーを通じて渡されたバイト数	B256_JMSServerThruByteRt
WLSSPI_RPT_METRICS	JDBC	接続プール内の使用可能な JDBC 接続の使用率	B260_JDBCConnectionPoolUtil
WLSSPI_RPT_METRICS	JDBC	1 秒あたりに接続プールで処理されるクライアントの数	B262_JDBCConnectionPoolThruRt
WLSSPI_RPT_METRICS	JDBC	JDBC 接続プールのリークした接続の割合	B263_JDBCConLkRt
WLSSPI_RPT_METRICS	JDBC	JDBC 接続プールの接続遅延	B265_JDBCConTime
WLSSPI_RPT_METRICS	JCA	接続プール内の使用可能な JCA 接続の使用率	B270_CnctrPoolUtil
WLSSPI_RPT_METRICS	JCA	JCA 接続プールのリークした接続の割合	B278_CnctrLeakRt
WLSSPI_RPT_METRICS	Server	XML パーサーでの外部参照が含まれるディスクにキャッシュされたエントリの総数	B281_XMLCacheDskSize
WLSSPI_RPT_METRICS	Server	XML パーサーでの外部参照が含まれるメモリにキャッシュされたエントリの総数	B282_XMLCacheMemSize
WLSSPI_METRICS	ThreadPool	保留状態の要求の数	B283_DeferredReqsCnt
WLSSPI_METRICS	ThreadPool	スレッド要求待ち時間	B284_ReqWaitTimThrd
WLSSPI_METRICS	ThreadPool	保留状態の要求の数	B285_PendingReqCount

表 19 WebLogic SPI のデータストア メトリック

テーブル名	領域	メトリックの説明	列名
WLSSPI_METRICS	Server	保留状態の要求の割合	B286_PendingReqPct
WLSSPI_METRICS	ThreadPool	スレッド 要求最長待ち時間	B287_ReqMaxWaitTime
WLSSPI_METRICS	ThreadPool	スタンバイ プールのスレッド数	B288_StandbyThrdCnt
WLSSPI_RPT_METRICS	EJB	処理されたメッセージ数	B289_MDBProcMsgRate
WLSSPI_RPT_METRICS	Server	WebLogic ドメイン構成、クラスタ情報、および物理的なコンピュータ	B812_DomainInfo
WLSSPI_METRICS	JVM	JVM ヒープ空きメモリ (KB 単位)	B819_JVMHeapFreeMem
WLSSPI_METRICS	Server	要サーバー再起動	B820_SrvrRestReqrd
WLSSPI_METRICS	Server	RequestManager 一時停止	B821_Suspnded
WLSSPI_METRICS	EJB	プールからの bean インスタンスがプールからスローされたアプリケーション以外の例外によって無効化された合計回数	B822_DstroydTlCnt
WLSSPI_METRICS WLSSPI_RPT_METRICS	EJB	フリー プールからインスタンスを取得するために行った試行が失敗した回数	B823_EJBMssdCntRtSum

C レポート用のデータストアの詳細

WebLogic SPI では、WebLogic Server のレポート用に、次のデータストアの詳細が作成されます。

表 20 レポート用のデータストア

レポート名	レポート テーブル名	レポート テーブル 属性	データストア クラス名	ポリシー ログ データ
a_wls_availability.rpt g_wls_availability.rpt s_wls_availability_details .rpt a_wls_availability.rpt g_wls_availability.rpt s_wls_availability_details .rpt	WEBLOGIC	ID	WEBLOGIC	WLSSPI-05min
		SYSTEMNAME		
		DATETIME		
		GMT		
		SHIFTNAME		
		METRICID		
		OBJECTNAME		
		SERVERNAME		
		SORTID		
		VALUE		
		VALUEID		
		APPLICATIONN AME		

表 20 レポート用のデータストア

レポート名	レポート テーブル名	レポート テーブル 属性	データストア クラス名	ポリシー ログ データ
a_wls_perf_server_tput_top.rpt g_wls_perf_server_tput_top.rpt s_wls_perf_load_exec_queues.rpt a_wls_perf_server_tput_top.rpt g_wls_perf_server_tput_top.rpt s_wls_perf_load_exec_queues.rpt	WEBLOGIC	ID	WEBLOGIC	WLSSPI-15min
		SYSTEMNAME		
		DATETIME		
		GMT		
		SHIFTNAME		
		METRICID		
		OBJECTNAME		
		SERVERNAME		
		SORTID		
		VALUE		
		VALUEID		
APPLICATIONNAME				
a_wls_load_exec_util_top.rpt g_wls_load_exec_util_top.rpt s_wls_perf_load_exec_queues.rpt a_wls_load_exec_util_top.rpt g_wls_load_exec_util_top.rpt s_wls_perf_load_exec_queues.rpt	WEBLOGIC	ID	WEBLOGIC	WLSSPI_0011 WLSSPI-15min
		SYSTEMNAME		
		DATETIME		
		GMT		
		SHIFTNAME		
		METRICID		
		OBJECTNAME		
		SERVERNAME		
		SORTID		
		VALUE		
		VALUEID		
APPLICATIONNAME				

表 20 レポート用のデータストア

レポート名	レポート テーブル名	レポート テーブル 属性	データストア クラス名	ポリシー ログ データ
a_wls_load_ejb_pool_rate_top.rpt g_wls_load_ejb_pool_rate_top.rpt a_wls_load_ejb_pool_rate_top.rpt g_wls_load_ejb_pool_rate_top.rpt	WEBLOGIC	ID	WEBLOGIC	WLSSPI_0025 WLSSPI-15min
		SYSTEMNAME		
		DATETIME		
		GMT		
		SHIFTNAME		
		METRICID		
		OBJECTNAME		
		SERVERNAME		
		SORTID		
		VALUE		
		VALUEID		
a_wls_load_ejb_timeout_rate_top.rpt g_wls_load_ejb_timeout_rate_top.rpt a_wls_load_ejb_timeout_rate_top.rpt g_wls_load_ejb_timeout_rate_top.rpt	WEBLOGIC	ID	WEBLOGIC	WLSSPI_0026 WLSSPI-15min
		SYSTEMNAME		
		DATETIME		
		GMT		
		SHIFTNAME		
		METRICID		
		OBJECTNAME		
		SERVERNAME		
		SORTID		
		VALUE		
		VALUEID		
APPLICATIONNAME				

表 20 レポート用のデータストア

レポート名	レポート テーブル名	レポート テーブル 属性	データ ストア クラス名	ポリシー ログ データ
a_wls_perf_ejb_trans_ tput_top.rpt g_wls_perf_ejb_trans_ tput_top.rpt a_wls_perf_ejb_trans_ tput_top.rpt g_wls_perf_ejb_trans_ tput_top.rpt	WEBLOGIC	ID	WEBLOGIC	WLSSPI_0035 WLSSPI-15min
		SYSTEMNAME		
		DATETIME		
		GMT		
		SHIFTNAME		
		METRICID		
		OBJECTNAME		
		SERVERNAME		
		SORTID		
		VALUE		
		VALUEID		
APPLICATIONN AME				
s_wls_trans_rollback_ percent.rpt s_wls_trans_rollback_ percent.rpt	WEBLOGIC	ID	WEBLOGIC	WLSSPI_0072 WLSSPI-05min
		SYSTEMNAME		
		DATETIME		
		GMT		
		SHIFTNAME		
		METRICID		
		OBJECTNAME		
		SERVERNAME		
		SORTID		
		VALUE		
		VALUEID		
APPLICATIONN AME				

表 20 レポート用のデータストア

レポート名	レポート テーブル名	レポート テーブル 属性	データ ストア クラス名	ポリシー ログ データ
s_wls_trans_rollback_ percent.rpt s_wls_trans_rollback_ percent.rpt	WEBLOGIC	ID	WEBLOGIC	WLSSPI_0073 WLSSPI-05min
		SYSTEMNAME		
		DATETIME		
		GMT		
		SHIFTNAME		
		METRICID		
		OBJECTNAME		
		SERVERNAME		
		SORTID		
		VALUE		
		VALUEID		
APPLICATIONN AME				
s_wls_trans_rollback_ percent.rpt s_wls_trans_rollback_ percent.rpt	WEBLOGIC	ID	WEBLOGIC	WLSSPI_0074 WLSSPI-05min
		SYSTEMNAME		
		DATETIME		
		GMT		
		SHIFTNAME		
		METRICID		
		OBJECTNAME		
		SERVERNAME		
		SORTID		
		VALUE		
		VALUEID		
APPLICATIONN AME				

表 20 レポート用のデータストア

レポート名	レポート テーブル名	レポート テーブル 属性	データストア クラス名	ポリシー ログ データ
s_wls_trans_rollback_ percent.rpt s_wls_trans_rollback_ percent.rpt	WEBLOGIC	ID	WEBLOGIC	WLSSPI_0075 WLSSPI-05min
		SYSTEMNAME		
		DATETIME		
		GMT		
		SHIFTNAME		
		METRICID		
		OBJECTNAME		
		SERVERNAME		
		SORTID		
		VALUE		
		VALUEID		
APPLICATIONN AME				
a_wls_perf_trans_tput_ top.rpt g_wls_perf_trans_tput_ top.rpt s_wls_trans_throughput. rpt a_wls_perf_trans_tput_ top.rpt g_wls_perf_trans_tput_ top.rpt s_wls_trans_throughput. rpt	WEBLOGIC	ID	WEBLOGIC	WLSSPI-05min
		SYSTEMNAME		
		DATETIME		
		GMT		
		SHIFTNAME		
		METRICID		
		OBJECTNAME		
		SERVERNAME		
		SORTID		
		VALUE		
		VALUEID		
APPLICATIONN AME				

表 20 レポート用のデータストア

レポート名	レポート テーブル名	レポート テーブル 属性	データストア クラス名	ポリシー ログ データ
s_wls_state_ejb_cache_ util_top.rpt s_wls_state_ejb_cache_ util_top.rpt	WEBLOGIC	ID	WEBLOGIC	WLSSPI_0238 WLSSPI-15min
		SYSTEMNAME		
		DATETIME		
		GMT		
		SHIFTNAME		
		METRICID		
		OBJECTNAME		
		SERVERNAME		
		SORTID		
		VALUE		
		VALUEID		
APPLICATIONNAME				
a_wls_servlet_exec_time_ top.rpt g_wls_servlet_exec_time_ top.rpt s_wls_servlet_request_ rate.rpt a_wls_servlet_exec_time_ top.rpt g_wls_servlet_exec_time_ top.rpt s_wls_servlet_request_ rate.rpt	WEBLOGIC	ID	WEBLOGIC	WLSSPI_0240 WLSSPI-1h
		SYSTEMNAME		
		DATETIME		
		GMT		
		SHIFTNAME		
		METRICID		
		OBJECTNAME		
		SERVERNAME		
		SORTID		
		VALUE		
		VALUEID		
APPLICATIONNAME				

表 20 レポート用のデータストア

レポート名	レポート テーブル名	レポート テーブル 属性	データ ストア クラス名	ポリシー ログ データ
a_wls_load_svlt_req_top.rpt a_wls_servlet_exec_time_top.rpt g_wls_load_svlt_req_top.rpt g_wls_servlet_exec_time_top.rpt s_wls_servlet_request_rate.rpt a_wls_load_svlt_req_top.rpt a_wls_servlet_exec_time_top.rpt g_wls_load_svlt_req_top.rpt g_wls_servlet_exec_time_top.rpt s_wls_servlet_request_rate.rpt	WEBLOGIC	ID	WEBLOGIC	WLSSPI_0242 WLSSPI-1h
		SYSTEMNAME		
		DATETIME		
		GMT		
		SHIFTNAME		
		METRICID		
		OBJECTNAME		
		SERVERNAME		
		SORTID		
		VALUE		
		VALUEID		
		APPLICATIONNAME		
		s_wls_perf_load_jms_servers_msg.rpt s_wls_perf_load_jms_servers_msg.rpt		
SYSTEMNAME				
DATETIME				
GMT				
SHIFTNAME				
METRICID				
OBJECTNAME				
SERVERNAME				
SORTID				
VALUE				
VALUEID				
APPLICATIONNAME				

表 20 レポート用のデータストア

レポート名	レポート テーブル名	レポート テーブル 属性	データ ストア クラス名	ポリシー ログ データ
s_wls_perf_load_jms_ servers_byte.rpt s_wls_perf_load_jms_ servers_byte.rpt	WEBLOGIC	ID	WEBLOGIC	WLSSPI_0252 WLSSPI-15min
		SYSTEMNAME		
		DATETIME		
		GMT		
		SHIFTNAME		
		METRICID		
		OBJECTNAME		
		SERVERNAME		
		SORTID		
		VALUE		
		VALUEID		
APPLICATIONN AME				
s_wls_perf_load_jms_ servers_msg.rpt s_wls_perf_load_jms_ servers_msg.rpt	WEBLOGIC	ID	WEBLOGIC	WLSSPI-15min
		SYSTEMNAME		
		DATETIME		
		GMT		
		SHIFTNAME		
		METRICID		
		OBJECTNAME		
		SERVERNAME		
		SORTID		
		VALUE		
		VALUEID		
APPLICATIONN AME				

表 20 レポート用のデータストア

レポート名	レポート テーブル名	レポート テーブル 属性	データ ストア クラス名	ポリシー ログ データ
s_wls_perf_load_jms_ servers_byte.rpt s_wls_perf_load_jms_ servers_byte.rpt	WEBLOGIC	ID	WEBLOGIC	WLSSPI-15min
		SYSTEMNAME		
		DATETIME		
		GMT		
		SHIFTNAME		
		METRICID		
		OBJECTNAME		
		SERVERNAME		
		SORTID		
		VALUE		
		VALUEID		
APPLICATIONN AME				
s_wls_perf_load_jdbc_ conn_pools.rpt s_wls_perf_load_jdbc_ conn_pools.rpt	WEBLOGIC	ID	WEBLOGIC	WLSSPI_0260 WLSSPI-05min
		SYSTEMNAME		
		DATETIME		
		GMT		
		SHIFTNAME		
		METRICID		
		OBJECTNAME		
		SERVERNAME		
		SORTID		
		VALUE		
		VALUEID		
APPLICATIONN AME				

表 20 レポート用のデータストア

レポート名	レポート テーブル名	レポート テーブル 属性	データ ストア クラス名	ポリシー ログ データ
s_wls_perf_load_jdbc_ conn_pools.rpt s_wls_perf_load_jdbc_ conn_pools.rpt	WEBLOGIC	ID	WEBLOGIC	WLSSPI-05min
		SYSTEMNAME		
		DATETIME		
		GMT		
		SHIFTNAME		
		METRICID		
		OBJECTNAME		
		SERVERNAME		
		SORTID		
		VALUE		
		VALUEID		
		APPLICATIONN AME		

D グラフ用のデータストアの詳細

WebLogic SPI では、WebLogic Server のグラフ用に、次のデータストアの詳細が作成されます。

表 21 グラフ用のデータストア

グラフ名	ポリシー ログ データ	SPEC ファイル	データストアの データ クラス
JVM 使用率	WLSSPI_0005 WLSSPI-15min	wasspi_wls_graph.sp	wasspi_wls_graph
ThreadPool	WLSSPI_0010 WLSSPI-15min	wasspi_wls_graph.sp	wasspi_wls_graph
	WLSSPI_0011 WLSSPI-15min	wasspi_wls_graph.sp	wasspi_wls_graph
	WLSSPI_0012 WLSSPI-15min	wasspi_wls_graph.sp	wasspi_wls_graph
サーバー統計	WLSSPI_0013 WLSSPI-15min	wasspi_wls_graph.sp	wasspi_wls_graph
	WLSSPI_0014 WLSSPI-15min	wasspi_wls_graph.sp	wasspi_wls_graph
	WLSSPI_0015 WLSSPI-15min	wasspi_wls_graph.sp	wasspi_wls_graph
EJB パフォーマンス	WLSSPI_0025 WLSSPI-15min	wasspi_wls_graph.sp	wasspi_wls_graph
	WLSSPI_0026 WLSSPI-15min	wasspi_wls_graph.sp	wasspi_wls_graph
	WLSSPI_0035 WLSSPI-15min	wasspi_wls_graph.sp	wasspi_wls_graph
	WLSSPI_0036 WLSSPI-15min	wasspi_wls_graph.sp	wasspi_wls_graph
JDBC プール待機	WLSSPI_0061 WLSSPI-05min	wasspi_wls_graph.sp	wasspi_wls_graph
	WLSSPI_0063 WLSSPI-05min	wasspi_wls_graph.sp	wasspi_wls_graph

表 21 グラフ用のデータストア

グラフ名	ポリシー ログ データ	SPEC ファイル	データストアの データクラス
トランザクション パフォーマンス	WLSSPI_0070 WLSSPI-05min	wasspi_wls_graph.sp	wasspi_wls_graph
Transaction Rollback Percent (トランザク ション ロールバックの 割合)	WLSSPI_0071 WLSSPI-05min	wasspi_wls_graph.sp	wasspi_wls_graph
トランザクション ロールバック分析	WLSSPI_0072 WLSSPI-05min	wasspi_wls_graph.sp	wasspi_wls_graph
	WLSSPI_0073 WLSSPI-05min	wasspi_wls_graph.sp	wasspi_wls_graph
	WLSSPI_0074 WLSSPI-05min	wasspi_wls_graph.sp	wasspi_wls_graph
	WLSSPI_0075 WLSSPI-05min	wasspi_wls_graph.sp	wasspi_wls_graph
トランザクション パフォーマンス	WLSSPI_0076 WLSSPI-05min	wasspi_wls_graph.sp	wasspi_wls_graph
	WLSSPI_0077 WLSSPI-05min	wasspi_wls_graph.sp	wasspi_wls_graph
サーバー統計	WLSSPI_0078 WLSSPI-05min	wasspi_wls_graph.sp	wasspi_wls_graph
トランザクション パフォーマンス	WLSSPI_0079 WLSSPI-05min	wasspi_wls_graph.sp	wasspi_wls_graph
クラスタ	WLSSPI_0080 WLSSPI-05min	wasspi_wls_graph.sp	wasspi_wls_graph
	WLSSPI_0081 WLSSPI-05min	wasspi_wls_graph.sp	wasspi_wls_graph
セキュリティ	WLSSPI_0085 WLSSPI-05min	wasspi_wls_graph.sp	wasspi_wls_graph

表 21 グラフ用のデータストア

グラフ名	ポリシー ログ データ	SPEC ファイル	データストアの データ クラス
ThreadPool	WLSSPI_0283 WLSSPI-15min	wasspi_wls_graph.sp	wasspi_wls_graph
	WLSSPI_0284 WLSSPI-15min	wasspi_wls_graph.sp	wasspi_wls_graph
	WLSSPI_0285 WLSSPI-15min	wasspi_wls_graph.sp	wasspi_wls_graph
	WLSSPI_0286 WLSSPI-15min	wasspi_wls_graph.sp	wasspi_wls_graph
	WLSSPI_0287 WLSSPI-15min	wasspi_wls_graph.sp	wasspi_wls_graph
	WLSSPI_0288 WLSSPI-15min	wasspi_wls_graph.sp	wasspi_wls_graph

索引

B

- B001_ServerStatus 21
- B002_ServerStatusRep 22
- B005_JVMMemUtilPct 22
- B010_ExQueThruRate 24
- B011_ExQThrdUtilPct 25
- B012_ExQueWaitCnt 27
- B013_SocketTrafficRt 28
- B014_ActiveSocketCnt 29
- B015_SrvrRestartsPct 30
- B016_GloThrePoolOverload 31
- B017_WorkloadMgrOverload 32
- B025_EJBFreePoolWtRt 33
- B026_EJBTimeoutRt 37
- B035_EJBTranThruRt 39
- B036_EJBTranRbRt 40
- B061_JDBCConPIWtCnt 52
- B063_JDBCConnectionPoolLeakedConnectionsRtSum 53
- B070_TranAveTime 57
- B071_TransRollbackPct 59
- B072_TranResErrRbPct 61
- B073_TranAppErrRbPct 62
- B074_TranTimErrRbPct 63
- B075_TranSysErrRbPct 64
- B076_TranThruRate 65
- B077_TranHeurCnt 66
- B078_ConnectorConnectionPoolLeakedConnRateSum 68
- B079_TranCapacityUtil 70
- B080_ClsOutMesFailRt 70
- B081_ClsInMesFailRt 72
- B082_ClusterHealth 74
- B085_InvLoginAttCnt 79
- B092_ExQueThroughput 84
- B225_EJBFreePoolWaitRate 35
- B226_EJBTimeoutRate 38
- B238_EJBCacheHitPct 41
- B240_ServeletAveExecTime 42
- B241_ServletTimeCnt 43
- B242_ServletReqRate 43
- B245_WebAppSessionCnt 44
- B246_WebAppHitRt 45
- B251_JMSUtilByMessagePct 45
- B252_JMSUtilByBytePct 47
- B253_JMSThreshByMessagePct 48
- B254_JMSThreshByBytePct 49
- B255_JMSServerThruMessageRt 50
- B256_JMSServerThruByteRt 50
- B260_JDBCConnectionPoolUtil 51
- B262_JDBCConnectionPoolThruRt 53
- B263_JDBCConnectionPoolLeakedConnectionsRt 54
- B264_JDBCConnectionPoolFailures 55
- B265_JDBCConnectionPoolAvgConnectionDelayTime 56
- B270_ConnectorConnectionPoolUtil 58
- B278_ConnectorConnectionPoolLeakedConnRate 68
- B281_XMLCacheDiskSize 74
- B282_XMLCacheMemorySize 76
- B283_DeferredRequestsCnt 76
- B284_ReqWaitTimeForThread 78
- B285_PendingReqCount 80
- B286_PendingReqPct 81
- B287_ReqMaxWaitTime 82
- B288_StandbyThreadCount 83
- B289_MDBProcMsgRate 84
- B812_DomainInfo 85
- B813_ApplicationInfo 85
- B815_TranInfo 86

B819_JVMHeapFreeMem 86
B820_SrvrRestReqrd 87
B821_Suspnded 88
B822_DstroydTlCnt 89
B823_EJBMssdCntRtSum 90
B824_EJBMssdCntRt 91

E

EJB

B025_EJBFreePoolWtRt 33
B026_EJBTimeoutRt 37
B035_EJBTranThruRt 39
B036_EJBTranRbRt 40
B225_EJBFreePoolWaitRate 35
B226_EJBTimeoutRate 38
B238_EJBCacheHitPct 41
キャッシュの割合 41

EJB Bean

待機中にタイムアウトになったクライアント 37
待機中にタイムアウトになったクライアント (ドリルダウン) 38

EJB beans

フリー プールから使用できない 33
フリー プールから使用できない (ドリルダウン) 35

EJB トランザクション 39

ロールバックされた 40

H

HPOM の最小/最大しきい値 19

HPOM のしきい値タイプ 19

HPOM のデフォルトのしきい値 19

HP Performance Insight レポート 97

J

Java Message Service

JMS 参照

JCA 接続

使用率 58

JDBC

B061_JDBCConPIWtCnt 52
B063_JDBCConnectionPoolLeakedConnectionsRtSum 53
B260_JDBCConnectionPoolUtil 51
B262_JDBCConnectionPoolThruRt 53
B263_JDBCConnectionPoolLeakedConnectionsRt 54
B264_JDBCConnectionPoolFailures 55
B265_JDBCConnectionPoolAvgConnectionDelayTime 56
接続の遅延 56
接続プール内で使用された接続数 51
接続プール内で閉じられていない接続の数 53
接続プール内で待ち時間を超えている接続の数 53
接続プール内のリークした接続の数 54
接続プールによって処理されるクライアントの数 53
接続プールの障害 55
接続プールの接続を待機しているクライアントの数 52

JMS

B251_JMSUtilByMessagePct 45
B252_JMSUtilByBytePct 47
B253_JMSThreshByMessagePct 48
B254_JMSThreshByBytePct 49
B255_JMSServerThruMessageRt 50
B256_JMSServerThruByteRt 50
キュー内のバイト数 47
キュー内のメッセージ数 45
バイトしきい値条件 49
メッセージしきい値条件 48
渡されたバイト数 50
渡されたメッセージ数 50

JVM

B005_JVMMemUtilPct 22

JVM ヒープ空間

使用されている割合 22

R

Reporter レポート 95

W

WebLogic Server

ログ ファイルのエラーと注意域 93, 94

WebLogic ログ ポリシー 93, 94

Web アプリケーション

B245_WebAppSessionCnt 44
B246_WebAppHitRt 45
1 秒あたりに開かれているセッション 45
開かれているセッション 44

WLSSPI エラー ログ 92

X

XML パーサー

ディスク上の外部参照 74

メモリ内の外部参照 76

XML キャッシュ

B092_ExQueThroughput 84

B281_XMLCacheDiskSize 74

B282_XMLCacheMemorySize 76

B283_DeferredRequestsCnt 76

B284_ReqWaitTimeForThread 78

B285_PendingReqCount 80

B286_PendingReqPct 81

B287_ReqMaxWaitTime 82

B288_StandbyThreadCount 83

スタンバイプールのスレッド数 83

スレッド要求最長待ち時間 82

スレッド要求待ち時間 78

パーサーの外部参照があるディスク上のエントリ 74

パーサーの外部参照があるメモリ内のエントリ 76

保留状態の要求 76

保留状態の要求の数 80

保留状態の要求の割合 81

か

可用性

B001_ServerStatus 21

B002_ServerStatusRep 22

き

キャッシュ

EJB の割合 41

キュー内のバイト数

JMS 47

キュー内のメッセージ数

JMS 45

許容される再起動 30

<

クライアントのタイムアウト

EJB Bean の待機中 37

EJB Bean の待機中(ドリルダウン) 38

クライアント要求

処理すべき数 27

クラスタ

B080_ClsOutMesFailRt 70

B081_ClsInMesFailRt 74, 72

マルチキャスト メッセージ、再送 70

マルチキャスト メッセージ、消失 72, 74

グラフ

生成に使用するメトリック 99

こ

コネクタ

B078_ConnectorConnectionPoolLeakedConnRateSum
68

B270_ConnectorConnectionPoolUtil 58

B278_ConnectorConnectionPoolLeakedConnRate 68

使用された JCA 接続 58

閉じられていない接続 68

待ち時間を超える接続 68

リークした接続の割合 68

コミット時間

トランザクション 57

さ

サーバーのステータス 21

サーバーのステータス、レポート作成 22

サーブレット

B240_ServletAveExecTime 42

B241_ServletTimeCnt 43

B242_ServletReqRate 43

使用された時間 43

実行時間 42

要求 43

し

しきい値条件

JMS バイト 49

JMS メッセージ 48

指示文 20

収集間隔 19

使用可能な WebLogic Server のバージョン 19

使用中のスレッド

実行キューの割合 25

使用率

トランザクションの容量 70

実行キュー

処理される要求の数 24

使用中のスレッドの割合 25

実行時間

 サーブレット 42

重要度 19

す

スタンバイ プール

 スレッド 83

スレッド

 要求待ち時間 78

せ

セキュリティ

 B085_InvLoginAttCnt 79

 無効なログイン試行 79

接続

 JCA 接続プールからのリーク 68

 JDBC 接続プール、障害 55

 JDBC 接続プール、処理されるクライアントの数 53

 JDBC 接続プール、使用率 51

 JDBC 接続プール、待機中のクライアント数 52

 JDBC 接続プール、遅延 56

 JDBC 接続プール、閉じられていない 53

 JDBC 接続プール、待ち時間超過 53

 JDBC 接続プール、リーク 54

 コレクタ、閉じられていない 68

 コレクタ、待ち時間超過 68

接続プール

 JCA、リーク 68

 JDBC 接続、障害 55

 JDBC 接続、処理されるクライアントの数 53

 JDBC 接続、使用された 51

 JDBC 接続、待機中のクライアント数 52

 JDBC 接続、遅延 56

 JDBC 接続、閉じられていない 53

 JDBC 接続、待ち時間超過 53

 JDBC 接続、リーク 54

 使用された JCA 接続 58

説明 19

そ

ソケット接続

 1秒あたりに開かれている数 28

 現在開かれている数 29

と

特別なレポート

 B812_DomainInfo 85

 B813_ApplicationInfo 85

 B815_TrainInfo 86

トランザクション

 B070_TrainAveTime 57

 B071_TransRollbackPct 59

 B072_TrainResErrRbPct 61

 B073_TrainAppErrRbPct 62

 B074_TrainTimErrRbPct 63

 B075_TrainSysErrRbPct 64

 B076_TrainThruRate 65

 B077_TrainHeurCnt 66

 B079_TrainCapacityUtil 70

EJB 39

 返されたヒューリスティックな決定 66

 コミット時間 57

 処理された数 65

 容量使用率 70

 ロールバック、アプリケーション エラー 62

 ロールバック、合計 59

 ロールバックされた EJB 40

 ロールバック、システム エラー 64

 ロールバック、タイムアウト エラー 63

 ロールバック、リソース エラー 61

は

パフォーマンス

 B010_ExQueThruRate 24

 B011_ExQThrdUtilPct 25

 B012_ExQueWaitCnt 27

 B015_SrvrRestartsPct 30

 B013_SocketTrafficRt 28

 B014_ActiveSocketCnt 29

ひ

ヒープ空間

 JVM で使用されている割合 22

開かれているセッション

 1秒あたりの Web アプリケーション 45

 Web アプリケーション 44

ふ

フリー プール

 使用できない EJB Bean 33

 使用できない EJB Bean (ドリル ダウン) 35

ま

- マルチキャスト メッセージ
 - クラスタ、再送 70
 - クラスタ、消失 72, 74

め

- メッセージ グループ 20
- メッセージ テキスト 20
- メトリック
 - グラフの生成 99
 - メトリックから生成された HP Performance Insight のレポート 97
 - メトリックから生成された Reporter のレポート 95
- メトリック仕様
 - 説明 19
- メトリック タイプ 19
- メトリックの概要
 - HPOM の最小/最大しきい値 19
 - HPOM のしきい値タイプ 19
 - HPOM のデフォルトのしきい値 19
 - 指示文 20
 - 収集間隔 19
 - 使用可能な WebLogic Server のバージョン 19
 - 重要度 19
 - 説明 19
 - メッセージ グループ 20
 - メッセージ テキスト 20
 - メトリック タイプ 19
 - メトリック名 19
 - モニター テンプレート名 19
 - 領域 20
 - 列の説明 9
 - レポートの種類 20
- メトリック名 19

も

- モニター テンプレート名 19

よ

- 要求
 - サブレット 43
 - 最長待ち時間 82
 - 実行キューで処理される数 24
 - スレッド待ち時間 78
 - 保留状態の数 80
 - 保留状態の割合 81

り

- 領域 20

れ

- レポート
 - OVPI 97
 - OVPI で生成に使用するメトリック 97
 - Reporter 95
 - Reporter で生成に使用するメトリック 95
- レポートの種類 20

ろ

- ログイン
 - 無効な試行 79

We appreciate your feedback!

If an email client is configured on this system, by default an email window opens when you click on the bookmark “Comments”.

In case you do not have the email client configured, copy the information below to a web mail client, and send this email to **docfeedback@hp.com**

Product name:

Document title:

Version number:

Feedback:

